

～令和6年度～

教育に関する事務の管理及び執行の状況の

点検及び評価の結果に関する報告書

(令和5年度事業)

令和6年12月

大口町教育委員会

大口町教育委員会は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条の規定に基づき、効果的な教育行政の推進に資するとともに町民への説明責任を果たすため、令和5年度事業の点検及び評価を実施し、その結果を報告書にまとめ、議会に提出するとともに公表します。

大口町教育委員会

大口町教育委員会委員名簿

(令和6年12月現在)

教育長	長 屋 孝 成
教育長職務代理者	鈴 村 由布子
委員	水 谷 恵 子
委員	舟 橋 由 治
委員	丹 羽 力 也

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

## 目 次

1	点検評価の目的	1
2	学識経験者の知見の活用	1
3	点検評価の対象	1
4	委員会の経過	1
5	点検評価の方法	2
6	点検評価の対象事業	2
7	点検評価の内容及び意見等	3
	学校教育課	5～3 2
	学校給食センター	3 3～3 6
	生涯学習課	3 7～5 6
	生涯学習課(歴史民俗資料館)	5 7～6 2
	図書館	6 3～6 4
	町史編さん室	6 5～6 6

## 1 点検評価の目的

平成19年6月に地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部が改正され、平成20年4月から、教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに、公表しなければならないこととされた。このことにより、効果的な教育行政の推進に資するとともに、住民への説明責任を果たしていくことを目的としている。

## 2 学識経験者の知見の活用

教育委員会は、点検評価の客観性を確保するため、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図り、前年度に実施した事業について、外部評価委員（2人）の意見をもとに点検評価を行う。

外部評価委員	松永 秀視（平成30年度大口町区長会会長）
	松岡 徳雄（社会教育委員・公民館運営審議会委員）

## 3 点検評価の対象

令和5年度に実施した生涯教育部各課の主要な事業を対象とする。

生涯教育部	学校教育課
	学校給食センター
	生涯学習課（歴史民俗資料館含む）
	図書館
	町史編さん室

## 4 委員会の経過

- 第1回 令和6年10月 9日（水）  
委嘱状交付、進め方、  
質疑応答（図書館、町史編さん室、生涯学習課）
- 第2回 令和6年10月21日（月）  
質疑応答（学校給食センター、学校教育課）
- 第3回 令和6年11月 6日（水）  
評価報告

## 5 点検評価の方法

事業ごとに外部評価点検シートを作成し、実施状況について点検・評価を実施する。

- (1) 各課において、事業の目的、内容を明らかにし、令和5年度の事業目標、取組状況、結果（成果）、課題等に基づき点検・評価（自己評価）を行う。
- (2) 評価等の客観性を確保するため、外部評価委員会において、外部評価委員より対象事業の意見や助言（外部評価）をいただく。

## 6 点検評価の対象事業

### 【学校教育課】

- No.1 教育委員会事業
- No.2 学校教育管理事業
- No.3 小学校運営事業
- No.4 小学校施設管理事業
- No.5 小学校整備事業
- No.6 小学校教育振興事業
- No.7 中学校運営事業
- No.8 中学校施設管理事業
- No.9 中学校教育振興事業
- No.10 社本育英事業
- No.11 こども未来応援事業

### 【給食センター】

- No.12 給食センター運営事業
- No.13 給食センター施設管理事業

### 【生涯学習課】

- No.14 家庭教育推進事業
- No.15 生涯学習活動推進事業
- No.16 生涯学習講座事業
- No.17 中央公民館管理事業
- No.18 町民会館管理事業
- No.19 社会体育振興事業
- No.20 温水プール管理事業

- No. 2 1 グラウンド等管理事業
- No. 2 2 野外活動施設管理事業
- No. 2 3 文化財保護事業
- No. 2 4 歴史民俗資料館運営事業
- No. 2 5 歴史文化教育事業

【図書館】

- No. 2 6 図書館運営事業

【町史編さん室】

- No. 2 7 町史編さん事業

## 7 点検評価の内容及び意見等





令和6年度（令和5年度事業）外部評価点検シート

No.1	事業名	教育委員会事業			課名	学校教育課
予算額	決算額	左の財源内訳				
		国県支出金	使用料等	繰入金	地方債・その他	一般財源
1,768,000	1,667,044	0	0	0	0	1,667,044
<b>1.事業目的</b>						
教育委員会は合議制の執行機関であり、生涯学習、教育、文化、スポーツ等の幅広い施策を展開する。教育委員会制度の意義は、政治的中立性の確保、継続性、安定性の確保、地域住民の意向の反映である。						
<b>2.事業内容</b>						
教育委員会定例会の実施						
<b>3.令和5年度の事業目標(前年度からの改善点を含む)</b>						
<p>1 新型コロナウイルス感染症により教育委員の視察ができていない状況である。今後は、感染状況等を見ながら本町事業等へ反映することができるような視察を計画していく。</p> <p>2 教育定例会において、部内各課所管事業の管理執行状況を適宜報告し、事務事業の進捗状況等を遅滞なく教育委員に報告し、必要に応じ意見聴取していく。</p> <p>3 教育委員の意見交換、聴取または、委員との意見交換や協議ができるよう会議の内容について職員間で事前に検討を行う。</p>						
<b>4.令和5年度の取り組み(事業実績)</b>						
<p>1 新型コロナウイルス感染症も落ち着いてきた為、教育委員会定例会において毎月、学校行事等の日程を報告する際、学校行事において、教育委員が参加可能な行事を伝えるように努め、視察として行事に参加していただいた。</p> <p>2 教育定例会以外のタイミングで、何らかの情報伝達事案が生じた場合は、遅滞なく報告するため、メール配信を行った。</p> <p>3 教育定例会の前に、事前に職員間で毎回事前調整を行った。</p>						
<b>5.事業の結果(成果)</b>						
<p>1 教育委員が視察に行っていたことで、会議の意見交換が活発になされた。</p> <p>2 事務事業の進捗状況等を遅滞なく報告することができた。</p> <p>3 会議の際、有意義な報告、協議ができた。</p>						
<b>6.事業の課題等</b>						
<p>コロナウイルス感染症対策によって途絶えた、教育委員会定例会の会場を、各学校に置くことを検討していく。</p>						
<b>評価委員 A(意見等)</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナの影響も少なくなり、教育委員の方の視察も元通りに近い状態になってきたと思う。教育委員さんの目を通して、それがさらなる教育活動の向上につながるよう今後もよろしくお願いたい。</li> <li>・メール配信や職員間の事前調整は、素早い連絡調整や有意義な協議につながると思う。</li> </ul>						

評価委員 B(意見等)

- 視察は増やして頂きたいと思います。
- メール配信は手間と経費・時間の節約になり大変良い事だと思います。
- 教育委員会の定例会を各学校に設置したらどうでしょうか。

令和6年度（令和5年度事業）外部評価点検シート

No.2	事業名	学校教育管理事業			課名	学校教育課
予算額	決算額	左の財源内訳				
		国県支出金	使用料等	繰入金	地方債・その他	一般財源
44,703,000	41,661,954	7,000	0	0	0	41,654,954
<b>1.事業目的</b>						
<p>学校、家庭、地域社会の連携のもと、開かれた学校づくりと授業改善を目指すとともに、教員の資質向上を図る。</p> <p>確かな学力の定着と豊かな心の育成、また、健康や体力などすべてにおいて調和のとれた子どもを育てるとともに、子ども一人ひとりの個性を伸ばす教育を推進する。</p>						
<b>2.事業内容</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>• 適応指導教室</li> <li>• 学習活動支援（サポートルームさくら）</li> <li>• ICT支援業務</li> <li>• 就学時健康診断</li> <li>• 特別支援学校給食費補助</li> <li>• 教職員等健康診断</li> <li>• GIGAスクールタブレット</li> <li>• 学校生活管理指導表作成助成</li> </ul>						
<b>3.令和5年度の事業目標(前年度からの改善点を含む)</b>						
<p><b>1 適応指導教室</b>            適応指導教室事業の拡充のため、令和4年度より指導員を1名増員した。また、ふれあいの森管理棟2階を改修し、令和5年1月から場所を健康文化センターからふれあいの森へ移動し開設。事業実施場所を、外国語指導ボランティアグループと共有しているため、今後はパーティションを設置してプライバシー対策を行いたい。</p> <p><b>2 学習活動支援（サポートルームさくら）</b>            新型コロナウイルス感染症拡大防止のため休止していたが、令和4年7月より再開、令和4年度は3月に11名だった。学びたいと思っている子ども達に、学べる場所があることを広報等で知ってもらい、利用促進を促していく。</p> <p><b>3 適応指導教室関係</b>            欠員となっていたスクールソーシャルワーカーが令和4年11月より配置された。今後は正規職員として配置したい。</p> <p><b>4 学校タブレット、パソコン関係</b>            令和4年度にサーバー・校務パソコンのリプレイスに伴って校務パソコンと学習用パソコン(タブレット)のネットワーク分離がより強固なものとなった。情報漏洩など昨今のリスクに対応する形でハード面は対応することとなったが、情報リテラシーなど使用者(教員・児童・生徒)の意識を高めていくことが今後は重要となるため、検討したい。            また、破損による修繕が購入価格を上回る事例があるため、その対策を検討したい。</p> <p><b>5 ICT支援業務</b>            令和3年度より引き続きICT支援員を設置した。導入から年数が経っていることもあり、支援回数を昨年の各校毎月7回程度から毎月4回程度に減らし教員向けの支援を行っていく。支援の効果もあり、タブレット導入より3年を迎え、授業内での使い方などもある程度慣れてきていると考えられる。今後は支援員なしでも各自教員が意識的にタブレットを活用し授業の効率が上がるようにしていく。</p>						

#### 6 特別支援学校給食費補助

町立小中学校の学校給食費については、平成22年度より保護者が負担すべき給食費の半額負担を行っており、平成24年度から、障がいにより大口町立学校に就学していない児童のうち、県立特別支援学校に在籍する児童への就学奨励として、町立学校在籍児童と同様、当該県立特別支援学校給食費の2分の1（保護者が負担すべき額の2分の1）の負担を行っている。今年も同様に行う。

#### 7 学校生活管理指導表作成助成

令和3年度より保護者の心理的、経済的負担の軽減を図ることを目的に、アレルギー、心・腎疾患、乳糖不耐症の児童生徒の保護者を対象に、学校生活管理指導表の作成に係る費用の助成を開始した。今年も同様に行う。

#### 8 副読本郷土読本改訂

令和5年度が副読本郷土読本「ふるさと大口」全改訂の年度となるため、年度初めより1年をかけて各学校担当者を集め時代に合った副読本になるよう改訂を進める。

#### 9 教職員等健康診断

従来、年度始業前に、教職員の健康診断を実施してきたことから、随意契約をし、その業者と児童生徒の検診についても随意契約で行ってきた。今年度は、業者選定を検討していきたい。

### 4. 令和5年度の取り組み(事業実績)

#### 1 適応指導教室

パーティションを設置してプライバシー対策を行った。

#### 2 学習活動支援（サポートルームさくら）

学べる場所があることを広報等でお知らせを行った。

#### 3 適応指導教室関係

令和5年4月からスクールソーシャルワーカーを正規職員として配置した。

#### 4 学校タブレット、パソコン関係

次の更新（令和7年度）に向け、破損による修繕が購入価格を上回る場合、自己修繕を行ったり、修繕を見送る（廃棄）選択を行い、予備機を徐々に減らす方針を取った。

また、学校に配置したタブレット数とその破損状況を把握し、学校間で移動させながら授業等に支障が生じないよう取り組んだ。

#### 5 ICT支援業務

本制度も3年目となったことから事業を縮小して、意識的に教員各自の取り組みを求めた。

#### 6 特別支援学校給食費補助

保護者に補助を行った。

#### 7 学校生活管理指導表作成助成

保護者に補助を行った。

#### 8 副読本郷土読本改訂

教職員による副読本「ふるさと大口」全改訂のチームを立ち上げ、作業を進めた。

<p>9教職員等健康診断  教職員の健康診断を春休みから夏休みに移行し、児童生徒の検診についても、始業後即、準備が始まることから、検診等実施業者には、4月1日付けで入札（開札）を行う旨、事前通知と、当初予算議決後、入札を行った。</p>
<p>5.事業の結果(成果)</p>
<p>1 適応指導教室  ふれあいの森管理棟2階を改修し、令和5年1月から場所を健康文化センターからふれあいの森へ移動したことで場所が広くなり、さらにパーテーションも設置したことで指導員から環境がとてよくなったと伺っている。</p> <p>2 学習活動支援（サポートルームさくら）  年度末には登録者数が33名となった。登録者数は増加したが、若干、騒がしい生徒が多くなり、ボランティア講師はこの場の意義等を生徒に伝え、再三、注意を促したが運営に苦慮する場面があった。</p> <p>3 適応指導教室関係  適応指導教室の指導員、学校との連携を図りながら、学校生活への適応が困難で不登校及びその傾向にある児童生徒の支援を行うことができた。</p> <p>4 学校タブレット、パソコン関係  令和7年度の更新に向けて、自己修繕、修繕を見送る（廃棄）、学校間の移動は費用面で効果があった。</p> <p>5 ICT支援業務  学校現場からは継続要望もあったが、費用面も考慮して令和5年度もって終了することができた。</p> <p>6 特別支援学校給食費補助  保護者の負担軽減につながった。</p> <p>7 学校生活管理指導表作成助成  保護者の心理的、経済的負担の軽減を図ることができた。</p> <p>8 副読本郷土読本改訂  全面改訂版が年度末に完成し、新年度から授業で使われることになった。</p> <p>9 教職員等健康診断  随意契約による業者選定から、入札に変更したことで本来の選定の形に移行できた。</p>
<p>6.事業の課題等</p>
<p>2 学習活動支援（サポートルームさくら）  新年度に向けて、人数の制限など登録の在り方を検討する必要がある。</p>
<p>評価委員 A(意見等)</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 適応指導教室の場所が移動したが、新たな環境がよりよい効果を生むよう工夫していただきたい。</li> <li>・ ICT 支援業務が終了になり費用面では成果が得られたと思うが、現場からの継続希望もあったとのことで、本当にそれでよいのか慎重に検討していただきたい。タブレット等の導入がより生かされるよう、現場とよく話し合っ進めていただきたい。</li> </ul>

評価委員 B(意見等)

- ・学習活動支援（サポートルームさくら）--塾へ行けない子らの学習の場所・居場所作りは大変良い事だと思います。
- ・タブレットの常時使用の弊害や、AI 使用が普及してきている事で、自分で思考する力が落ちるのではないかという心配がある。今後、タブレットの利用方法を検討する必要があるのではないのでしょうか。

令和6年度（令和5年度事業）外部評価点検シート

No.3	事業名	小学校運営事業			課名	学校教育課
予算額	決算額	左の財源内訳				
		国県支出金	使用料等	繰入金	地方債・その他	一般財源
118,526,000	112,607,809	1,711,000	0	0	0	110,896,809
<b>1.事業目的</b>						
<p>学校・家庭・地域社会の連携のもと、開かれた学校づくりや授業力向上をめざした教員の資質向上を図り、学校教育の目的を達成するために、適切かつ効果的に教育事務を推進する。</p>						
<b>2.事業内容</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校支援員の配置</li> <li>・児童の健康診断</li> <li>・各種検査・テスト</li> <li>・芸術鑑賞会</li> <li>・スクールバス運行</li> <li>・英語指導助手講師派遣</li> </ul>						
<b>3.令和5年度の事業目標(前年度からの改善点を含む)</b>						
<b>1 学校支援員の配置</b>						
<p>個別事情を抱えた児童への配慮や円滑な学級運営に対応できるよう1年生の学級数+1名を配置している。また、平成31年度から医療的ケア児への対応として南小に看護師兼学校支援員を配置。令和4年度からは、南小以外の2校についても医療的ケア児への対応ができるよう看護師兼支援員を配置した。今年も同様に全校に配置していきたい。</p>						
<b>2 英語指導助手講師派遣</b>						
<p>令和2年度から、新学習指導要領により英語が5、6年生は教科化、3年生からは外国語活動として必修化され、英語専科の教員配置が一部の小学校で始まった。外国語指導委託業務については、長年同一業者に委託しているので業者選定が課題である為、対応を検討していきたい。</p>						
<b>3 通信回線</b>						
<p>令和3年度に通信回線強化工事(ローカルブレイクアウト)を行い、校務パソコン用通信回線とは分離したGIGAスクールタブレット用の専用通信回線の敷設を行った。工事完了～令和4年度中は通信の遅延などは起こっていないが、今後技術の発達に伴い通信容量が大きくなるにつれて、遅延が起きることも予想されるため都度通信プランの見直しを行う。</p>						
<b>4 児童健康診断</b>						
<p>従来、年度始業前に、教職員の健康診断を実施してきたことから、随意契約をし、その業者と児童生徒の検診についても随意契約で行ってきた。今年度は、業者選定を検討していきたい。</p>						
<b>5 予算編成</b>						
<p>学校規模や児童数を予算措置額の積算根拠として、一定の統一性を確保する取り組みを行う。</p>						
<b>4.令和5年度の取り組み(事業実績)</b>						
<b>1 学校支援員の配置</b> 1年生の学級数+1名を配置、看護師兼支援員1名を全学校に配置した。						
<b>2 英語指導助手講師派遣</b> 委託している業者について、教師向けにアンケート調査を行った。						
<b>3 通信回線</b> 通信プランの見直し検討を行った。						
<b>4 児童健康診断</b>						
<p>教職員の健康診断を春休みから夏休みに移行し、児童生徒の検診についても、始業後即、準備が始まることから、検診等実施業者には、4月1日付けで入札(開札)を行う旨、事前通知と、当初予算議決後、入札を行った。</p>						

## 5 予算編成

学校規模や児童数を予算措置額の積算根拠として、一定の統一性を確保する取り組みを行った。

また、予算執行や事務処理について、統一的な指針を示すことで、予算執行の透明性を高めつつ事務改善を実現するよう取り組んだ。

さらに、学校現場に保管している机や椅子の数量を把握し、今後の児童、生徒数の増減（長期的には減少傾向）に対応することとした。

## 5.事業の結果(成果)

1 学校支援員の配置 児童への配慮や学級運営が円滑に進めることができた。

### 2 英語指導助手講師派遣

教師向けアンケート調査で、好結果で、さらにその経験値から学校との調整等も上手くいっており、当面継続していくこととした。

### 3 通信回線

通信プランの見直しを行ったが、現状の速度、容量で十分と判断したため同一のプランを継続利用する。

4 児童・教職員の健康診断 随意契約による業者選定から、入札に変更したことで本来の形に移行できた。

## 5 予算編成

学校からの予算要求事務を削減し、一定のルールに基づく予算配分法を示した上で、事務を進め、ヒアリングを行ったため、編成事務の変化に混乱が生じたがスタートラインには立てた。

科目の見直しや予算執行に学校裁量の余地が少ない科目は、その起票事務を学校教育課に移管したため、学校現場の負荷は軽減されることとなった。

また、校務用機器の更新によって、消耗品の種類や使用量把握が難しくなったため、新年度からそれらの購入を学校教育課で一括購入し、学校在庫を減らすことで、予算執行管理が明確になることが見込めるようになった。

各校から生徒の増加によって不足する机や椅子の購入費予算要求があったが、全数把握により、学校間移動でその対応が可能と判断し、学校からの予算要求をカットできた。

なお、これらの取り組みによって若干の余剰財源が生み出される予定であることから、児童生徒から学年費の中で徴収していた用紙や印刷インク代を公費とすることで、保護者負担軽減をはかれた。

## 6.事業の課題等

### 1 学校支援員の配置

新入学児童の学校生活支援のため、1年生の学級数+1名を配置しているが、個別事情を抱えた児童、生徒が増加傾向にあるため、業務内容が広がりがつある。

また、宿泊を伴う校外行事への随行について、任用条件等の面で可能であるか、行政がどこまで責任を負えるのか、負うのかを検討課題として残った。

2 英語指導助手講師派遣 状況を把握しながら、今後も検討していく。

評価委員 A(意見等)

- ・学校支援員の手厚い配置は、現場にとってとてもありがたいことだと思う。学校支援員及び看護師兼支援員をうまく機能させて学校教育に生かしていくのは、各学校の工夫にあると思う。各学校の状況を把握しながら、その点の共有ができるが良い。
- ・英語指導助手講師派遣についてアンケートを実施されたのは良いことである。しかも良い結果が得られたということで、現状としてはうまく機能しているようである。今後も時々こうした調査が必要である。

評価委員 B(意見等)

- ・校務用機器の更新により、消耗品や使用量把握が難しくなったとのことだが、それらの購入を学校教育課で一括購入し、学校在庫を減らすことで若干の余剰財源が生み出され、その結果、児童生徒の学年費の徴収を減らし、保護者負担軽減ができたことは大変有意義な事だと思います。



令和6年度（令和5年度事業）外部評価点検シート

No.4	事業名	小学校施設管理事業			課名	学校教育課
予算額	決算額	左の財源内訳				
		国県支出金	使用料等	繰入金	地方債・その他	一般財源
56,051,000	52,818,716	0	0	0	68,023	52,750,693
<b>1.事業目的</b>						
児童が学習の場として一日の大半を過ごす学校施設を安全で安心な場所であるよう、学校施設の維持管理、整備を行う。						
<b>2.事業内容</b>						
・施設の維持管理      ・教具、その他の設備の修繕						
<b>3.令和5年度の事業目標(前年度からの改善点を含む)</b>						
<b>1 蛍光灯</b> 蛍光灯の生産が限られた業者になり、購入が難しい状況下である。LED化されていない南小学校(校舎、屋内運動場)・北小学校(校舎)についてはLED機器への更新の検討を行う。						
<b>2 施設管理修繕</b> 大口南小学校、大口北小学校については、計画している修繕を行いながら、施設の管理に努める。						
<b>3 予算措置</b> 水光熱費や役務費予算は学校教育課に集約できないか検討。 また、学校現場の判断において対応できる仕組みを検討。						
<b>4 施設総合管理委託</b> 校舎の新築や増改築時に施設管理を委託業務（学校施設総合管理）へ移行してきたため、西小学校長寿命化工事終了後も、委託業務への移行を検討する。						
<b>4.令和5年度の取り組み(事業実績)</b>						
<b>1 蛍光灯</b> LED 化工事に係る情報収集を行った。						
<b>2 施設管理修繕</b> 日常的な施設修繕に対応しながら、各校における状況把握に努めた。その状況は次のとおり。						
<b>●大口北小学校</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・体育館の暗幕や排煙窓の不具合</li> <li>・運動場の水はけ改修工事の検討</li> <li>・校舎窓の戸車改修（4年計画で、旧北部中学校時代の校舎を順次、実施中。本年は2階）</li> <li>・通用口のオートロック化（授業時は施錠、来客の度に、教職員が1階に出向き開閉していた）は、補助金申請が追加で認められたことから、繰越明許費を設定して着手。</li> </ul>						
<b>●西小学校</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・運動場の水はけ改善と遊具等の再配置工事の準備</li> <li>・長寿命化工事の対象外となっている、水道引込管の改修の検討（大規模漏水の発生）</li> <li>・ピオトープ施設の改修（井戸ポンプの入れ替え）と西っ子里山クラブによる今後の活動検討支援</li> </ul>						
<b>3 予算措置</b> 水光熱費や役務費予算は学校教育課に集約して、一括支払い処理し、修繕料も施工費が10万円を下回る案件については学校現場の判断において対応できるようにした。						

<p>4施設総合管理委託 西小学校長寿命化工事終了後、委託業務への移行を検討。</p>
<p>5.事業の結果(成果)</p> <p>1 蛍光灯 LED 化工事に係る予算編成を来年度以降行う準備が整った。</p> <p>2 施設管理修繕</p> <p>●大口北小学校</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・体育館の暗幕や排煙窓の不具合→令和6年度予算措置。なお、学芸会（生活発表会）の内容変化により、舞台装置を今後も使うことはないとのことであったので、吊り具等の撤去も合わせて行うこととした。</li> <li>・校舎前の観察池が劣化により漏水していたが、地域学校協働本部活動の一環で、地元の方々から補修していただいた。こういった、地域の方々の尽力は、学校教育活動において非常に意義あるものであることから今後も、感謝しながら連携を図りたい。</li> </ul> <p>●西小学校</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・運動場の水はけ改善工事と水道管入れ替え工事を6年度実施するため予算措置。</li> <li>・西児童クラブを学校敷地内に建設することになったため、遊具等の再配置整備については、その事業の中である程度実施することとした。</li> <li>・ビオトープ施設の改修（井戸ポンプの入れ替え）実施したことから、西っ子里山クラブの活動がリスタートし、地元企業からの参画も得られて、漏水調査や改修の検討など、活動が活発になってきた。新たな会員募集も始めている。</li> </ul> <p>3 予算措置 来年度から学校現場の判断において対応できるようになり、学校側の事務軽減につながった。</p> <p>4 施設総合管理委託の検証 過去は職員がそれぞれ契約し管理してきたことから、現状において、西小学校長寿命化工事終了後、委託業務への移行は一旦、見送ることとした。</p>
<p>6.事業の課題等</p> <p>1 蛍光灯 LED 化工事に係る予算編成を来年度以降行う。</p> <p>4 施設総合管理委託の検証 委託費用と職員配置による費用対効果を検証することが必要と判断した業務内容の再把握等を数値化し、人事、財政担当と協議を行う。</p>
<p>評価委員 A(意見等)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域学校協働本部活動の一環で観察池の補修がなされたことや、地元企業によるビオトープ施設を生かした活動が活発になってきたことなど、学校と地域が連携を深めている様子がよく分かる。今後も地域の力を生かしながら学校教育を充実させていけると良い。</li> <li>・水光熱費や役員費予算は学校教育課に集約し、施工費が10万円を下回る案件については学校現場の判断で対応できるようになったのは、学校現場としては事務が軽減されてありがたい措置である。</li> </ul>

評価委員 B(意見等)

- ・ビオトープ施設の改修について、地元企業からの参画も得られて、漏水調査や改修の検討など、活動が活発になってきたとの事、素晴らしい事だと思います。益々活発になって欲しいものです。
- ・校舎前の観察池が劣化により漏水したのを、地域学校協働本部活動の一環で地元の方々が補修してくれたことは、非常に意義あるもので感謝ですね。



令和6年度（令和5年度事業）外部評価点検シート

No.5	事業名	小学校整備事業			課名	学校教育課
予算額	決算額	左の財源内訳				
		国県支出金	使用料等	繰入金	地方債・その他	一般財源
726,855,600	639,634,090	102,692,000	0	0	532,166,600	4,775,490
1.事業目的						
児童が学習の場として一日の大半を過ごす学校施設を安全で安心な場所とするため、整備する。						
2.事業内容						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校施設整備</li> <li>・教具、その他施設整備</li> </ul>						
3.令和5年度の事業目標(前年度からの改善点を含む)						
<p>昭和51年（1976年）に開校した大口西小学校の学校施設は竣工から40年以上経過しており、壁や躯体など老朽化が著しくなっていることから令和4年度より長寿命化改修工事の施工を行っている。詳細設計に基づき、学校運営に支障が出ないよう監理業者と詳細を詰めつつ施工を進める。</p> <p>また、運動場・遊具等外構部分に係る箇所についても老朽化が進んでいるため施工検討を行う。</p>						
4.令和5年度の取り組み(事業実績)						
詳細設計に基づき、学校運営に支障が出ないよう監理業者と詳細を詰めつつ施工を行った。						
5.事業の結果(成果)						
<p>設計段階では把握が難しかった外壁補修の度合いや解体によって新たにアスベストが検出されたが、施工を見直しながら最低限の増額変更で大きな事故もなく完工した。</p> <p>施工管理がしっかりなされ、定例打合せでも工事の進捗状況や課題等が明確となっていたことから、順調な事業実施となった。</p> <p>約2年間にわたり、学校運営を継続した中での工事であったが、施工業者及び校務主任を始めとする教職員の尽力により、無事、事業が終了した。</p>						
6.事業の課題等						
施工後、細部では一部、配慮に欠けた点は若干、見受けられたが、改修工事においては起こり得ることであり、今後の運用の中で施設面に不具合が出てくれば、対処していきたい。						
評価委員 A(意見等)						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童が過ごす学校施設は、安全・安心な場所ではなくてはならない。長寿命化改修工事が無事に終了して、より安全・安心な場所になったと思う。学校運営をしながらの工事は何かと大変だったと思うが、無事終了してよかった。</li> </ul>						
評価委員 B(意見等)						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「施工後、細部では一部、配慮に欠けた点は若干、見受けられた点」について、修理していなかったところの水漏れということで、深刻な事態に発展しなくて良かったです。</li> <li>・「解体によって新たにアスベストが検出された」について、問題なく解決し完工できて良かったです。</li> </ul>						



令和6年度（令和5年度事業）外部評価点検シート

No.6	事業名	小学校教育振興事業			課名	学校教育課
予算額	決算額	左の財源内訳				
		国県支出金	使用料等	繰入金	地方債・その他	一般財源
8,500,000	8,231,902	272,300	0	0	0	7,959,602
<b>1.事業目的</b>						
<p>学校教育は、地方分権型社会への移行とそれに伴う規制緩和の中で、生涯学習の基礎を築く場としての使命を負っているが、本事業により、学校教育の充実に必要な教材、備品等を整備し教育の振興を図ることを目的とする。また、義務教育の円滑な実施と特別支援教育の振興に資することを目的とする。</p>						
<b>2.事業内容</b>						
<p>・副読本、教材、備品の購入      ・クラブ活動への援助      ・児童の就学のための援助</p>						
<b>3.令和5年度の事業目標(前年度からの改善点を含む)</b>						
<p><b>1 備品</b> 副読本等の現物支給やクラブ活動に代表される、体育的・文化的活動への支援を実施し、経年劣化している備品を更新する。</p> <p><b>2 就学援助</b> 経済的な理由により就学困難と認められる児童の保護者や特別支援学級に就学する保護者の経済的負担の軽減を図るため必要な援助を行う。</p>						
<b>4.令和5年度の取り組み(事業実績)</b>						
<p><b>1 備品</b> 副読本等の現物支給やクラブ活動に代表される、体育的・文化的活動への支援を実施し、経年劣化している備品の更新を行った。</p> <p><b>2 就学援助</b> 経済的な理由により就学困難と認められる児童の保護者や特別支援学級に就学する保護者の経済的負担の軽減を図るため必要な援助を行った。</p> <p>●就学援助の援助費目： 学用品費・通学用品費、校外活動費、修学旅行費、新入学用品費（新入学準備金）、給食費、PTA会費、卒業アルバム代 ※学校給食費については、平成22年度より保護者が負担すべき給食費の半額負担を行っている。</p> <p>●特別支援就学奨励費の援助費目： 学用品費・通学用品費、校外活動費、修学旅行費、新入学用品費、給食費</p> <p>●収入急減者の援助費目：給食費、修学旅行費、卒業アルバム代 ※令和2年度より開始。援助費目を限定して支援。</p>						
<b>5.事業の結果(成果)</b>						
<p><b>1 備品</b> 経年劣化している備品の更新を行うことができた。</p> <p><b>2</b> 令和6年3月現在、援助を行った対象者</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・準要保護児童就学援助費 110名</li> <li>・特別支援教育就学奨励費 26名</li> </ul>						

6.事業の課題等
1 経年劣化している備品が多く、計画的な修繕、購入が必要。
評価委員 A(意見等)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・すべての子どもが同じように教育を受けられるようであればいい。経済的な理由によって就学困難であってはいい。そのためにも保護者の経済的な負担を軽減するための措置には意味がある。必要などころへ確実に支援が届くよう配慮をお願いしたい。</li> </ul>
評価委員 B(意見等)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・援助を行った対象者について「準要保護児童就学援助費110名、特別支援教育就学奨励費26名」とあるが、対象者の推移を出し、今後の参考にしてください。</li> <li>・「クラブ活動に代表される、体育的・文化的活動への支援を実施し、経年劣化している備品の更新を行った。」について、部活は将来社会に出てから大変重要な為、部活への支援は大変意義深いと思います。</li> </ul>

令和6年度（令和5年度事業）外部評価点検シート

No.7	事業名	中学校運営事業			課名	学校教育課
予算額	決算額	左の財源内訳				
		国県支出金	使用料等	繰入金	地方債・その他	一般財源
52,926,000	51,374,454	35,000	0	0	0	51,339,454
1.事業目的						
<p>学校・家庭・地域社会の連携のもと、開かれた学校づくりや授業改善をめざした教員の資質向上を図り、学校教育の目的を達成するために、適切かつ効果的に教育事務を推進する。</p>						
2.事業内容						
<p>・生徒の健康診断      ・各種検査・テスト      ・芸術鑑賞会      ・英語指導助手講師派遣</p>						
3.令和5年度の事業目標(前年度からの改善点を含む)						
<p>1 英語指導助手講師派遣                      外国語指導委託業務については、長年同一業者に委託しているので業者選定が課題である為、対応を検討していきたい。</p> <p>2 通信回線                      令和3年度に通信回線強化工事(ローカルブレイクアウト)を行い、校務パソコン用通信回線とは分離したGIGAスクールタブレット用の専用通信回線の敷設を行った。工事完了～令和4年度中は通信の遅延などは起こっていないが、今後技術の発達に伴い通信容量が大きくなるにつれて、遅延が起ってくることも予想されるため都度通信プランの見直しを行う。</p> <p>3 生徒の健康診断                      従来、年度始業前に、教職員の健康診断を実施してきたことから、その業者と児童生徒の検診についても随意契約で行ってきた。今年度は、入札による業者選定を検討していきたい。</p> <p>4 予算編成                      学校規模や児童数を予算措置額の積算根拠として、一定の統一性を確保する取り組みを行う。</p>						
4.令和5年度の取り組み(事業実績)						
<p>1 英語指導助手講師派遣                      外国語指導委託業務を委託している業者について、教師向けにアンケート調査を行った。</p> <p>2 通信回線      通信プランの見直し検討を行った。</p> <p>3 生徒の健康診断                      教職員の健康診断を春休みから夏休みに移行し、児童生徒の検診についても、始業後即、準備が始まることから、検診等実施業者には、4月1日付けで入札(開札)を行う旨、事前通知と、当初予算議決後、入札を行った。</p> <p>4 予算編成                      学校規模や児童数を予算措置額の積算根拠として、一定の統一性を確保する取り組みを行った。                      また、予算執行や事務処理について、統一的な指針を示すことで、予算執行の透明性を高めつつ事務改善を実現するよう取り組んだ。</p>						

5.事業の結果(成果)
<p>1 英語指導助手講師派遣      外国語指導委託業者についての教師向けアンケート調査で、好結果で、さらにその経験値から学校との調整等も上手くいっており、当面継続していくこととした。</p> <p>2 通信回線      通信プランの見直しを行ったが、現状の速度、容量で十分と判断したため同一のプランを継続利用する。</p> <p>3 生徒の健康診断      随意契約による業者選定から、入札に変更したことで本来の選定の形に移行できた。</p> <p>4 予算編成      学校からの予算要求事務を削減し、一定のルールに基づく予算配分法を示した上で、事務を進め、ヒアリングを行ったため、編成事務の変化に混乱が生じたがスタートラインには立てた。      科目の見直しや予算執行に学校裁量の余地が少ない科目は、その起票事務を学校教育課に移管したため、学校現場の負荷は軽減されることとなった。      また、校務用機器の更新によって、消耗品の種類や使用量把握が難しくなったため、新年度からそれらの購入を学校教育課で一括購入し、学校在庫を減らすことで、予算執行管理が明確になることが見込めるようになった。      なお、これらの取り組みによって若干の余剰財源が生み出される予定であることから、児童生徒から学年費の中で徴収していた用紙や印刷インク代を公費とすることで、保護者負担軽減をはかれた。</p>
6.事業の課題等
<p>1 英語指導助手講師派遣      状況を把握しながら、今後も検討していく。</p>
評価委員 A(意見等)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 予算編成において、学校現場の負担軽減を実現したり、若干ではあるが余剰財源が生み出されたりするなど、改革がなされたことは評価できることである。</li> <li>・ 校務/パソコン用通信回線と GIGA スクールタブレット用の専用回線を分離したのは、セキュリティー対策として有効だと思う。</li> </ul>
評価委員 B(意見等)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生徒の健康診断について、「随意契約による業者選定から、入札に変更したことで本来の選定の形に移行できた。」ことは、大変良い事だと思います。</li> <li>・ 外国語指導委託業務については、長年同一業者に委託しているので業者選定を検討して貰いたい。</li> <li>・ 予算編成「学校規模や児童数を予算措置額の積算根拠として、一定の統一性を確保する取り組みを。」について、児童数が少ない学校では同じ内容の事が出来ないということは発生しないかを今後検討してみてください。</li> </ul>

令和6年度（令和5年度事業）外部評価点検シート

No.8	事業名	中学校施設管理事業			課名	学校教育課
予算額	決算額	左の財源内訳				
		国県支出金	使用料等	繰入金	地方債・その他	一般財源
36,754,000	35,627,748	0	0	0	0	35,627,748
<b>1.事業目的</b>						
生徒が学習の場として一日の大半を過ごす学校施設が安全で安心な場所であるよう、学校施設の維持管理、整備を行う。						
<b>2.事業内容</b>						
・学校施設の維持管理      ・教具、その他設備の修繕						
<b>3.令和5年度の事業目標(前年度からの改善点を含む)</b>						
<b>1 蛍光灯</b> 蛍光灯の生産が限られた業者になり、購入が難しい状況下である。LED化されていない校舎、屋内運動場についてはLED機器への更新の検討を行う。						
<b>2 施設管理修繕</b> 平成20年4月の開校以来15年が経過しているが、校舎及び設備の管理については、総合管理としているため、適切な時期に適切な業務を計画的に実施してもらう。 プール雨水排水ポンプの不具合がみられるため、点検・修繕を行う。						
<b>3 予算措置</b> 水光熱費や役務費予算は学校教育課に集約できないか検討。 また、学校現場の判断において対応できる仕組みを検討。						
<b>4.令和5年度の取り組み(事業実績)</b>						
<b>1 蛍光灯</b> LED化工事に係る情報収集を行った。						
<b>2 施設管理修繕</b> プール雨水排水ポンプの不具合がみられるため、点検・修繕を行った。						
<b>3 予算措置</b> 水光熱費や役務費予算は学校教育課に集約して、一括支払い処理し、修繕料も施工費が10万円を下回る案件については学校現場の判断において対応できるようにした。						
<b>5.事業の結果(成果)</b>						
<b>1 蛍光灯</b> LED化工事に係る予算編成を来年度以降行う準備が整った。						
<b>2 施設管理修繕</b> 散水設備の誤作動等、改修工事費を予算措置して令和6年度、対応することとした。						

<p>3 予算措置 来年度から学校現場の判断において対応できるようになり、学校側の事務軽減につながった。</p>
<p>6.事業の課題等</p>
<p>1 蛍光灯 LED 化工事に係る予算編成を来年度以降行う準備が整った。</p> <p>2 施設管理修繕 竣工から15年が経過し、設備や備品の破損・不具合発生頻度が高くなってきている。 また、それに加えて天災等を原因とする修繕や、定期的なメンテナンス工事（施設整備事業）が今まで以上に増加することが想定されるため、計画的な施行を検討が必要となってくる。 屋内運動場について、昭和49年の建築より必要に応じて耐震補強・屋上防水などは行っているが設備の老朽化は進んでいるため大規模な改修が必要となる。</p>
<p>評価委員 A(意見等)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 予算措置において、学校現場の判断で対応できるようになったことは、事務軽減等負担が軽くなりありがたい措置だと思う。</li> <li>・ LED 化を含め、より安全安心な学校施設であるよう、速やかに改善できるよう努力していただきたい。</li> </ul>
<p>評価委員 B(意見等)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「散水設備の誤作動等」について、発生の原因調査が今後必要だと思います。</li> <li>・ LED 化工事は電気代等経費節減にもなるから、早急に工事をすべきかと思います。</li> <li>・ 「屋内運動場の耐震補強・屋上防水などは行っているが設備の老朽化は進んでいるため大規模な改修が必要となる」について、危険なため早急に対策すべきかと思います。</li> </ul>

令和6年度（令和5年度事業）外部評価点検シート

No.9	事業名	中学校教育振興事業			課名	学校教育課
予算額	決算額	左の財源内訳				
		国県支出金	使用料等	繰入金	地方債・その他	一般財源
15,394,000	14,593,733	85,700	0	0	0	14,508,033
<b>1.事業目的</b>						
<p>学校教育は、地方分権型社会への移行とそれに伴う規制緩和の中で、生涯学習の基礎を築く場としての使命を負っているが、本事業により、学校教育の充実に必要な教材、備品等を整備し教育の振興を図ることを目的とする。また、義務教育の円滑な実施と特別支援教育の振興に資することを目的とする。</p>						
<b>2.事業内容</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・副読本、教材の購入</li> <li>・部活動への援助</li> <li>・部活動の外部委託</li> <li>・生徒の就学のための援助</li> </ul>						
<b>3.令和5年度の事業目標(前年度からの改善点を含む)</b>						
<p><b>1 備品</b> 副読本等の現物支給や部活動に代表される、体育的・文化的活動への支援を実施し、経年劣化している備品を定期的に更新していく。</p> <p><b>2 就学援助</b> 経済的な理由により就学困難と認められる児童の保護者や特別支援学級に就学する保護者の経済的負担の軽減を図るため必要な援助を実施する。</p> <p><b>3 部活動・教員の働き方の見直し</b> 部活動の教育的意義を念頭に、教員(指導者)の負担軽減を図りながら生徒の部活動を維持するため、部活動の外部委託をはじめ、今年で3年目となる。委託先のウイル大ロススポーツクラブ、学校と調整しながら今年も進めていく。 種目：【R3】水泳、サッカー、バレー 【R4】【R5】水泳、サッカー、バレー、陸上、バスケット</p>						
<b>4.令和5年度の取り組み(事業実績)</b>						
<p><b>1 備品</b> 副読本等の現物支給やクラブ活動に代表される、体育的・文化的活動への支援を実施し、経年劣化している備品の更新を行った。</p> <p><b>2 就学援助</b> 経済的な理由により就学困難と認められる児童の保護者や特別支援学級に就学する保護者の経済的負担の軽減を図るため必要な援助を実施した。 ●就学援助の援助費目：学用品費・通学用品費、校外活動費、修学旅行費、新入学用品費（新入学準備金）、給食費、PTA会費、生徒会費、卒業アルバム代 ※学校給食費については、平成22年度より保護者が負担すべき給食費の半額負担を行っている。 ●特別支援就学奨励費の援助費目：学用品費・通学用品費、校外活動費、修学旅行費、新入学用品費、給食費 ●収入急減者の援助費目：給食費、修学旅行費、卒業アルバム代</p>						

<p>※令和2年度より開始。援助費目を限定して支援。</p> <p>3部活動・教員の働き方の見直し 学校と委託先で随時、協議、調整しながら事業を進めた。</p>
<p>5.事業の結果(成果)</p> <p>1 備品 経年劣化している備品の更新を行うことができた。</p> <p>2 就学援助 令和6年3月現在、援助を行った対象者</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 準要保護生徒就学援助費 62名</li> <li>・ 特別支援教育就学奨励費 5名</li> </ul> <p>3部活動・教員の働き方の見直し 部活動や教員の働き方の見直しにつながった。</p>
<p>6.事業の課題等</p> <p>1 備品 経年劣化している備品が多く、計画的な修繕、購入が必要。</p> <p>3部活動・教員の働き方の見直し 部活動に対する既成概念やその効果等の見直しができず、結果として、他校と比較して活動時間が長くなり、好成績は得られた事例は多いものの、そのバランスが検討課題となった。</p>
<p>評価委員 A(意見等)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 部活動の外部委託は3年目ということで、委託する種目も増えてきている。それ自体は、教員の働き方改革、指導者の専門性等望ましい方向であるが、部活動の教育的意義からも生徒や保護者、そして教員個人の思いも考慮しながら、適切な運営方法を採用していただきたい。</li> <li>・ 就学援助については、必要としているところへ必要な援助が届くよう配慮していただきたい。</li> </ul>
<p>評価委員 B(意見等)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「部活動の外部委託」について、本当に生徒の為になるのでしょうか。教師と生徒のコミュニケーションが取れなくなってしまうのか心配です。</li> <li>・ 学校の部活動時間が少なくなり、地域のクラブへ入会の補助をする方向へ検討が進んでいるようだが、生徒の愛校心・郷土愛が薄れる原因に繋がるのではないかと心配です。</li> </ul>

令和6年度（令和5年度事業）外部評価点検シート

No.10	事業名	社本育英事業			課名	学校教育課	
予算額	決算額	左の財源内訳					
		国県支出金	使用料等	繰入金	地方債・その他	一般財源	
8,147,000	8,145,143	0	0	8,143,642	1,501	0	
<b>1.事業目的</b>							
<p>大口町名誉町民故社本鋭郎氏のご遺族からの寄付金で基金を設け、昭和57年より、町立中学校に在学し、高等学校等へ進学を希望する生徒の中から奨励金あるいは奨学金を交付する事で、生徒が将来、社会の一線で活躍されるよう支援する。また、児童生徒が校外活動を通して歴史・文化・芸術などに対して幅広い興味、見識を身につけ、様々な体験を重ね健やかな成長に寄与することを目的とする。</p>							
<b>2.事業内容</b>							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・奨励金候補者の推薦依頼及び決定</li> <li>・奨励金、奨学金の交付</li> <li>・校外活動への支援（計画変更、キャンセル分を含む。）</li> <li>・奨学金の申請受付及び決定</li> <li>・歴史文化教育事業</li> </ul>							
<b>3.令和5年度の事業目標(前年度からの改善点を含む)</b>							
<p><b>1 奨励金</b> 平成27年度に従来の施行規則を改正し、従来の奨学金を「奨励金」と名称を改めるとともに、経済的な理由により高校等への就学が困難な生徒を支援する制度として「奨学金」を創設した。令和2年度に事業の見直しを行い、奨励金の金額を10万円から5万円に減額し、奨学金は、成績要件をなくし5万円1回のみ支給に変更した。今年も漏れなく申請をいただくよう周知し支給する。</p> <p><b>2 歴史文化教育事業助成金</b> 令和2年度より児童生徒を対象に歴史文化教育を事業に追加した。今年も小中学校の校外活動事業助成を行う。</p> <p><b>3 校外活動助成</b> 全国大会等参加費用の助成を行う。</p>							
<b>4.令和5年度の取り組み(事業実績)</b>							
<p><b>1 奨励金</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・奨励金(学業に秀でた生徒に交付) →6名に交付</li> <li>・奨学金(就学支援対象者が高校へ進学した際に、入学準備費用として交付) →14名に交付</li> </ul> <p>※従来は、中学校で案内資料を配布し本人申請による事務処理を行っていたが、今年度は、交付対象となり得る未申請者に連絡し交付の意思確認を行い、追加申請を受け付けた。</p> <p><b>2 歴史文化教育事業助成金</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・修学旅行 中学校が修学旅行で松江市を訪問、中学校に助成を行った。</li> <li>・松江サマースクール 令和3年度より姉妹都市交流を担う次世代を育成し持続的な交流へ繋げるために開催している松江サマースクール事業を今年も開催した。</li> </ul> <p><b>3 校外活動助成</b> 中学校生徒の県大会以上等参加費用の助成を行った。</p>							

5.事業の結果(成果)
<p>1 奨励金 保護者の負担軽減を図ることができた。 事務手続き上、申請期限を設定しが、就学援助者で未申請の方に奨学金交付申請について確認を行った結果、申請される方があった。申請主義を採りながらもより丁寧に事業実施する意義を認識する機会となった。</p> <p>2 歴史文化教育事業助成金 大町町の歴史文化教育に繋げることができた。</p> <p>3 校外活動助成 保護者の負担軽減を図ることができた。</p>
6.事業の課題等
<p>3 校外活動助成 参加決定が大会直前になることが多く、事前申請が難しい場合もあることを想定した要綱づくりをしているが、さらなる見直しを進め、より明確な制度運用を確保したい。</p>
評価委員 A(意見等)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・奨励金の他、歴史文化教育事業助成、校外活動助成も意義のある事業であると思うが、寄付金である以上、その趣旨に鑑み適切に運用する必要がある。本当に必要な事業は何かを検討し、財源に合わせた計画をするべきである。現状は「育英」の名にややそぐわないのではないかと感じる。</li> </ul>
評価委員 B(意見等)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「経済的な理由により高校等への就学が困難な生徒を支援する制度として「奨学金」を創設」について、大変意義のあることだと思います。</li> <li>・「歴史文化教育事業助成金」について、生徒の郷土愛を育む良い事業だと思います。</li> </ul>

令和6年度（令和5年度事業）外部評価点検シート

No.11	事業名	こども未来応援事業			課名	学校教育課
予算額	決算額	左の財源内訳				
		国県支出金	使用料等	繰入金	地方債・その他	一般財源
3,772,000	3,769,989	0	0	3,769,929	60	0
<b>1.事業目的</b>						
<p>町への寄付金と一般会計からの繰入金を財源とすることも未来応援事業において、子どもたちの成長段階に応じた支援を行うことで、人財を育成することを目的とする。</p>						
<b>2.事業内容</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・私立高等学校等授業料補助</li> <li>・奨学金返還支援</li> <li>・高等学校等通学費助成</li> <li>・次世代育成活動奨励事業</li> </ul>						
<b>3.令和5年度の事業目標(前年度からの改善点を含む)</b>						
<p><b>1 私立高等学校等授業料補助</b> 令和2年度まで一般会計において行ってきた私立高等学校等授業料補助を令和3年度からこども未来応援事業において実施。今年も補助を行う。</p> <p><b>2 奨学金返還助成</b> 令和2年度まで一般会計において行ってきた奨学金返還事業を令和3年度からこども未来応援事業において実施。今年も補助を行う。</p> <p><b>3 高等学校等通学費助成</b> 令和2年度から、高等学校等通学費助成を開始。高等学校等へ定期券等を購入し通学する生徒の保護者の負担軽減を図ることを目的に通学費の一部を助成する制度。所得制限は設けず、年間6万円を超える場合に3万円を上限として助成。今年も助成を行う。 また、助成開始から3年が経過し、助成額の上限額を見直すとともに、新たな就学支援制度を検討する。</p> <p><b>4 次世代育成活動奨励事業</b> 令和3年度から、次世代育成活動奨励事業を開始。個人、団体の自己研鑽を継続する活動や社会への寄与を目指し研究に取り組み活動を助成対象とし、活動内容等を広く周知する支援を今年も行う。</p>						
<b>4.令和5年度の取り組み(事業実績)</b>						
<p>1 私立高等学校等授業料補助 42名</p> <p>2 奨学金返還助成 34名</p> <p>3 高等学校等通学費助成 105名</p> <p>4 次世代育成活動奨励事業 9名</p>						
<b>5.事業の結果(成果)</b>						
<p><b>1 私立高等学校等授業料補助</b> 国県の助成制度の充実により、対象者は減少傾向となったが、保護者の負担軽減を図ることができた。私立高等学校等授業料補助について、要綱を改正し、通信制高等学校を対象とした。</p>						

## 2奨学金返還助成

返還者の負担軽減を図ることができた。

## 3高等学校等通学費助成

保護者の負担軽減を図ることができた。

助成対象者が増加傾向にあり、その総額が特定財源収入額を超える恐れが出てきたことから、助成額の減額を検討したが、家庭環境を取り巻く情勢を勘案して、一般財源を加えてでも助成額を維持することとなった。

## 4次世代育成活動奨励事業

頑張っている青少年の活動を広く町民に周知ができ、助成金で支援もできた。

## 6.事業の課題等

限られた財源ではあるか、可能な限り、子ども達の成長に及ぼす家庭環境の影響を抑制する施策を続けたい。

## 評価委員 A(意見等)

- ・物価が高騰し家計が苦しい状況の中、子どもが教育の機会均等を阻害されることなく、希望する教育が受けられるようできる限りの支援をしていただきたい。通学費助成額が減額されず維持されたのは良かったと思う。財源の問題もあるが、必要な支援が必要なところへ届くよう工夫をお願いしたい。
- ・次世代育成活動奨励事業で頑張っている青少年の活動が町民に周知できたのは、同じ世代の若者の励みになると思う。助成金もありがたいことだと思う。

## 評価委員 B(意見等)

・次世代育成活動奨励事業「頑張っている青少年の活動を広く町民に周知ができ、助成金で支援もできた」について、頑張っている青少年を応援出来て大変意義深い事だと思います。

令和6年度（令和5年度事業）外部評価点検シート

No.12	事業名	給食センター運営事業			課名	学校給食センター
予算額	決算額	左の財源内訳				
		国県支出金	使用料等	繰入金	地方債・その他	一般財源
154,471,000	150,412,756	0	0	0	67,190,117	83,222,639
<b>1.事業目的</b>						
<p>学校給食で児童・生徒が、日常生活における食事について、正しい理解と望ましい習慣を養うことができるよう、また、生涯にわたって健全な心と身体を培い、豊かな人間性を育ていける基礎をつくる。</p>						
<b>2.事業内容</b>						
<p>食材の調達 給食の調理 配送、回収 食器等の洗浄</p>						
<b>3.令和5年度の事業目標(前年度からの改善点を含む)</b>						
<p>日常業務の調理は、正規職員2名、会計年度職員12名（内2名が待機）の調理員で行っていた。臨時の調理員を募集しても中々応募がなく会計年度職員の確保に苦慮している。また、正規調理員の1名退職に伴い正規職員3名を採用した。</p> <p>衛生管理に関しては、基準が年々強化されてきたことから、これに対応するのに苦慮している。引き続き継続した課題は、給食の食べ残しや給食への地場産物の活用である。</p> <p>日常業務の調理及び配送等の業務は、本年度も直営で行っていくが、正規の調理員、安定的な運営のため3名の正規職員の採用を行ったことにより、今後も安定稼働を実現する。なお、配送等の業務については、配送車2台を平成15年3月に購入してから約20年が経過しているので引き続き環境に配慮した車両の購入又はリースを早期に検討する。残菜量の問題は、引き続き学校と連携して、少しでも減らすように取り組む。</p> <p>学校給食における地産地消の推進は、新たな地場産物の提供がえられるよう農業生産団体と調整を図る。</p> <p>コロナウイルス感染症拡大防止のため行ってきた、パンやりんご、柿、梨等のデザート類については、できるだけ個食包装で提供する。</p> <p>食材等の物価高騰しているが、献立の工夫や物資選定を適切に行い、現在の給食費で質、量の確保を保てるよう努力をする。</p>						
<b>4.令和5年度の取り組み(事業実績)</b>						
<p>配送車2台については、庁内で検討した結果、令和6年度当初予算にディーゼル車の購費を計上した。</p> <p>パンとデザートの果物類（リンゴ、オレンジ、パイナップル、キンカン等）について感染症対策と食品衛生面からも個包装で提供することができた。</p> <p>食材等の物価が高騰している中で、献立の工夫や物資選定の中で質と量の確保を保つことができた。</p>						
<b>5.事業の結果(成果)</b>						
<p>学校給食に使用した地場産物の品目数は昨年より1品多い5品目（大豆、玉ねぎ、小松菜、ブロッコリー、キャベツ）であった。</p> <p>パンとデザートの果物類（リンゴ、オレンジ、パイナップル、キンカン等）について感染症対策と食品衛生面からも個包装で提供することができた。</p>						

6.事業の課題等
<p>食材の高騰により、給食費内で質と量を両立していくことが課題。  学校給食に使用する地場産物の品目数を増やしていきたいが、なかなか増やせる状況にならない。</p>
評価委員 A(意見等)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校給食は子どもの健全な成長に欠かせないものである。充実した給食業務ができるよう人的確保には配慮が必要である。また、配送車の新たな購入またはリースも早期に進めていけるとよい。</li> <li>・物価高騰の折、質と量を確保するため努力されているが、限界があると思う。早期に公費の援助や給食費の引き上げもやむを得ない。</li> <li>・感染症対策と食品衛生面から個食包装で提供していただけたのは良かったと思う。</li> </ul>
評価委員 B(意見等)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・正規調理員について、もともと不足していたとのことだったので、今回増員したのは良い事だと思います。</li> <li>・現在食材が値上げしているのに、質・量の確保ができている点、給食費の半額を町が負担し、生徒・児童への負担を軽減していることは大変良い事だと思います。他市町村には無い取り組みということで、素晴らしい事だと思います。</li> </ul>

令和6年度（令和5年度事業）外部評価点検シート

No.13	事業名	給食センター施設管理事業			課名	学校給食センター
予算額	決算額	左の財源内訳				
		国県支出金	使用料等	繰入金	地方債・その他	一般財源
57,972,000	57,464,393	0	0	0	0	57,464,393
1.事業目的						
安心・安全な学校給食が提供できるよう、施設の維持管理を行うこと。						
2.事業内容						
光熱水費の管理 施設、設備機器の修繕 保守点検、清掃等の業務委託 備品の維持管理						
3.令和5年度の事業目標(前年度からの改善点を含む)						
<p>衛生管理の基準が年々強化されてきたが、施設・設備面で、これに十分な対応ができないところがある。</p> <p>また、定期的に施設及び厨房機器の保守点検、清掃等を実施してきたが、施設及び厨房機器の老朽化は否めない。</p> <p>突発的な機器の不具合で給食が滞ることにならないよう、設備・機器管理の徹底を図る必要がある。</p> <p>給食センターの調理室と洗浄室にエアコンが設置されていないため、暑さ対策を行う必要がある。</p>						
4.令和5年度の取り組み(事業実績)						
<p>新施設建設候補地について、候補地の選定をする。</p> <p>新施設整備計画書等を作成し、新施設が早期に建設ができるよう準備をする。</p>						
5.事業の結果(成果)						
<p>学校給食センター備品として、二重食缶10個、コンテナ2台を購入した。</p> <p>故障箇所を早急に修繕したことにより、年間を通じて給食提供をすることができた。</p> <p>新施設建設候補地を1か所選定することができた。</p> <p>令和6年度当初予算で学校給食センター整備基本計画策定委託料を計上した。</p>						
6.事業の課題等						
<p>新センター建設にむけて施設整備基本計画を次年度策定し、計画的に新施設の建設事業を進めるとともに、現有施設の維持管理を適切に行う必要がある。</p>						
評価委員 A(意見等)						
<ul style="list-style-type: none"> <li>給食調理の仕事は大変な重労働である。特に近年の猛暑の中での作業は一層困難なものになる。少しでも快適な環境になるよう、スポットクーラーや冷却ベスト等で工夫をされているとのことですが、一層の改善をお願いしたい。</li> <li>新センター建設に向けて動き出したようですが、老朽化した施設の新設が早く進むことを願っている。</li> </ul>						

評価委員 B(意見等)

・給食センター建設の計画が立てられるということですので、建設が待ち遠しいです。しかし、調理室・洗浄室にエアコンが設置されていないとのことで、建設されるまで、調理員の皆さんの健康が心配ですので、可能な限り、熱中症対策をしていただき、少しでも作業が楽にできるよう対処をお願いしたいと思います。

令和6年度（令和5年度事業）外部評価点検シート

No.14	事業名	家庭教育推進事業			課名	生涯学習課
予算額	決算額	左の財源内訳				
		国県支出金	使用料等	繰入金	地方債・その他	一般財源
377,000	366,960	0	0	0	42,050	324,910
1.事業目的						
<p>将来を担う子どもたちの健全育成は、学校・家庭・地域及び子どもに関する関係機関が連携し、すべての教育の基である家庭教育の充実を図り発展させること。</p>						
2.事業内容						
<ul style="list-style-type: none"> <li>家庭教育講座 ※小学生以上を対象にした講座や親子を対象にした自然体験教室等を開催する。</li> <li>青少年問題協議会 会議年1回、啓発活動</li> </ul>						
3.令和5年度の事業目標(前年度からの改善点を含む)						
<p>親子講座や親子がられあいながら、ともに学習できる機会の提供など充実を図る。 教室に参加した方にアンケートを実施しながら、新たなニーズをつかんでいく。 事業や開催時期などが重複しないよう、他の部局と情報を共有しながら連携を密にする。 令和4年度において、NPO登録団体の活動（父子料理教室）が実施できていないため、団体と連携を図りながら、事業の展開を図っていきたいと考える。</p>						
4.令和5年度の取り組み(事業実績)						
<p>○家庭教育講座の受付及び事業展開          &lt;生涯学習のまちづくり実行委員会開催講座&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「浴衣の着付け教室」（1回 参加人数 4組）</li> <li>「ドローンを操縦し飛ばしてみよう教室」（各1回 親子の部 14組、一般の部 11名）</li> <li>「Let's Try! キャンドル」 アロマサシェ（1回 参加人数 17名） ソイボタニカルキャンドル（1回 参加人数 2名） ジェルキャンドル（1回 参加人数 2名）</li> <li>理科おもしろ実験講座              「いろいろなスライムを作ろう!」（1回 参加人数14人）              「回る回る!ブーメラン・くるくるコプター」（1回 参加人数21人）              「重力と浮力 浮沈子を作ろう」（1回 参加人数18人）</li> <li>ヤマザキマザック工作機械博物館 館内見学&amp;モノづくり体験（1回 参加人数13名）</li> <li>親子自然体験教室（阿智村）（参加人数 10組26名）</li> </ul> <p>○ふれあいまつり2023</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>大口中学校PTA 千本釣り（参加人数400人）</li> <li>大口北小学校PTA 親子かわいい台づくり（参加組数54組）</li> <li>大口西小学校PTA わなげにチャレンジ（参加人数700人）</li> <li>大口南小学校PTA おかしすくいおもちゃすくい（参加人数502人）</li> </ul>						

<p>○青少年問題協議会          青少年問題協議会で巡回パトロール実施（ヨシツヤ、MEGAドン・キホーテUNY、バロー）          中学校・保護司と連携して、校外巡視時に啓発チラシ・グッズを配布</p>
<p>5.事業の結果(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和5年度は、コロナ禍以前に実施していた家庭教育講座を実施できるように検討したが、講師等の調整が進まず、結果として難しかった。</li> <li>・日間賀島の自然体験教室においては、実施時期の調整を始め、体験教室の内容において、親子で日間賀島での特徴ある体験の調整ができなかったため、実施を見送った。令和6年度に向けて再度調整していきたい。</li> <li>・新たな試みとして、阿智村において虫をテーマにした自然体験教室を行うことができた。（一社）阿智村全村博物館協会による虫の種類説明や図鑑を用いて親子で調べたりするなど親子のふれあいができた。</li> <li>・青少年問題協議会においては、令和4年度に引き続き、会議において江南警察署による地域の状況を聞き、令和5年8月25日に巡回パトロールを行うことができた。</li> </ul>
<p>6.事業の課題等</p> <p>教室に参加した方にアンケートを実施しながら、親子がともに学習できる家庭教育講座を実施できるよう努めていきたい。</p>
<p>評価委員 A(意見等)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・親子で参加することにより、共通の体験をもとに新たな親子のつながりが生まれる。こうした事業についての期待や要望も多くあると思う。アンケート等により様々なニーズを掘り起こしていくのは良い方法である。</li> <li>・自然体験教室のように恒例の行事として継続していくことも大切で、続けながら内容を工夫・充実させていくこともよい方法だと思う。</li> </ul>
<p>評価委員 B(意見等)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自然体験教室について、児童・生徒にとって自然体験は将来に大変重要な役割を果たします。そのため、もっといろいろな内容を増やして欲しいです。また、新たな参加者の掘り起こしのためにも、例年とは異なる体験内容を検討していただきたい。</li> <li>・青少年問題協議会について、将来発生する問題点を協議することが大切かと思えます。</li> </ul>

令和6年度（令和5年度事業）外部評価点検シート

No.15	事業名	生涯学習活動推進事業			課名	生涯学習課
予算額	決算額	左の財源内訳				
		国県支出金	使用料等	繰入金	地方債・その他	一般財源
18,421,000	16,359,926	0	56,680	200,000	0	16,103,246
1.事業目的						
<p>人々が自らの意思で、生涯学習活動を進めることにより、大口町生涯学習基本構想に基づく「生涯学習のまちづくり」を目指すこと。</p>						
2.事業内容						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・文化振興（芸能文化事業）</li> <li>・地域学校協働本部（学校支援地域本部）事業</li> <li>・文化協会支援</li> <li>・二十歳の集い実行委員会支援</li> <li>・リフレッシュリゾート施設利用助成</li> <li>・少年少女発明クラブ支援</li> </ul>						
3.令和5年度の事業目標(前年度からの改善点を含む)						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・開かれた学校づくりの一環として、地域住民が学校支援ボランティアとして協力ができるよう、地域学校協働本部は学校が困っていることを把握し、その問題に対応できる学校支援ボランティアを派遣できるように体制を整えていく。また、ボランティアから「こんな支援ができる」などの提案を聞きながら学校活動を支えていく。</li> <li>・文化協会及び各種団体については、令和4年度少しずつ活動が再開されたものの、イベントや教室が令和4年度は少なかったため、相談に乗りながら事業を進めていく。</li> <li>・リフレッシュリゾート施設利用助成については、引き続き、PRをしながら利用を促していく。</li> <li>・少年少女発明クラブについては、引き続き体制の支援を図っていく。</li> </ul>						
4.令和5年度の取り組み(事業実績)						
<p>文化協会の事業や地域学校協働本部（学校支援地域本部）事業において、コロナ禍以前の活動が徐々にできるように各事業を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○芸能文化事業 <ul style="list-style-type: none"> <li>ほほえみコンサート（2回） なんでもマラソンコンサート（1回）</li> <li>大人のピアノ発表会（1回） おおぐち合唱祭（1回）</li> </ul> </li> <li>○二十歳の集い実行委員会支援 二十歳の集い参加者177人参加</li> <li>○文化協会支援 <ul style="list-style-type: none"> <li>文化部、芸能部合わせて19団体、246人</li> <li>事業実績（作品展・教室・発表会） 54事業</li> </ul> </li> <li>○リフレッシュリゾート施設利用助成 <ul style="list-style-type: none"> <li>助成額1,784,500円（日間賀島234件 昼神温泉227件 共済22件 松江65件 南三陸11件 FDA利用43件）</li> </ul> </li> </ul>						

○地域学校協働本部（学校支援地域本部）事業  
ボランティア登録人数 87人（R6.3月末）

・大口中学校（抜粋）

「ふれあい清掃」：生徒と一緒にプリンター及び花壇の植替えや除草などを実施（延べ25回 143人）

「図書館サポート」：推薦図書のパップ作り、本のカバー貼り、本の清掃などの作業を実施（延べ20日 156人）

「特別支援学級授業サポート」：ボランティアと学校との打合せ会により授業分担を決め実施（延べ203日 226人）

小学校支援

・大口南小学校 環境サポート（延べ22回210人）、図書館サポート（延べ16回65人）などを実施。）

・大口北小学校 環境サポート（延べ38回213人）、図書館サポート（延べ32回154人）などを実施。）

・大口西小学校 環境サポート（延べ23回115人）、図書館サポート（延べ14回107人）などを実施。）

## 5.事業の結果(成果)

○文化協会においては、自主活動として文化協会45周年の記念事業を行った。会長を始め活性化ある活動を行うことができた。また、下部団体については、慰問施設や発表会の活動を行った。

○学校支援地域本部については、学校でのボランティア活動を大口町のホームページを用いてPRし、活動内容について、多くの人に知ってもらうことに努めた。ボランティア登録者が引き続き、今後も学校支援活動のやりがいとなるように支援を継続していく。

○芸能文化事業においては、ほほえみコンサート、なんでもマラソンコンサート、大人のピアノ発表会、おおぐち合唱祭を実施することができ、多くの方に音楽にふれあう場を提供できた。

○ダンス&ミュージックは、企画・運営の調整を行ったが、参加者が他のイベントに出場する機会も多くなり、参加者が少なく、内容等を再検討するため、見送った。

○リフレッシュリゾート施設利用助成については、令和4年度から24件増加している。引き続き、PRをしながら利用を促せればと考える

## 6.事業の課題等

・文化協会については、引き続き、協会全体の活性化及び円滑な活動ができるよう支援をしていく。

・地域学校協働本部については、今後も学校支援活動が地域における役割を担っていけるよう支援を継続していく。

・リフレッシュリゾート施設利用助成は、引き続き、PRをしながら利用を促せればと考える。

## 評価委員 A(意見等)

・学校支援地域本部の活動では、多くの人が参加して、環境サポートや図書館サポートを行っている。児童生徒の学習活動の助けになっている。今後もPRに努め、より多くの人に知ってもらうとともに、登録者の数も増えると良い。

・リフレッシュリゾート事業は、利用する人とそうでない人と2極化しているのではないか。不公平感をなくすためにも、PRとともに利用しやすくする方法を工夫していただきたい。

評価委員 B(意見等)

- ・文化協会全体が高齢化してきている。ふれあいまつりなどのイベントで若者グループなど、協会入会してくれるような宣伝等するとよいと思います。協会の内容・補助金有りなどを宣伝すれば若者グループも増えるのではないかと思います。
  - ・少年少女発明クラブは、聞くところ、工作・化学の内容がメインとのこと。もっと『創造力』を身に付けるような講座内容を増やすことが良いと思います。
- 『創造力』は、将来児童・生徒にとって有意義な力となります。



令和6年度（令和5年度事業）外部評価点検シート

No.16	事業名	生涯学習講座事業			課名	生涯学習課
予算額	決算額	左の財源内訳				
		国県支出金	使用料等	繰入金	地方債・その他	一般財源
917,000	837,790	0	0	0	2,100	835,690
1.事業目的						
<p>町民一人ひとりが、変化の多い社会の中で「明るく、楽しく、豊かに」生きることを願い、様々な分野の各種講座を開設し、個々の教養や技術を習得すること。</p>						
2.事業内容						
<ul style="list-style-type: none"> <li>定期講座 ※主に教養を深めることや趣味の拡大を目的に随時1講座6回程度開催する。</li> <li>旬の講座 ※その季節にあわせて1講座1回から3回程度開催する。</li> </ul>						
3.令和5年度の事業目標(前年度からの改善点を含む)						
<ul style="list-style-type: none"> <li>講座内容について、企画する上で、旬な講座も取り入れながら実践に役立つ講座や地域の住民が講師となり活躍できる講座の開設を中心に、参加人数にとらわれず、様々な方面から情報を模索し、きっかけづくりとなる講座を考える。</li> <li>さくら大学では12回実施、博物館などの見学を新型コロナ感染拡大防止に努めながら、再開を考える。</li> </ul>						
4.令和5年度の取り組み(事業実績)						
<ul style="list-style-type: none"> <li>〇姉妹都市提携講座 「彫刻体験「来待石」」（1回 参加人数4人）</li> <li>〇俳句をつくってみよう（1回 参加人数4人）</li> <li>〇高齢者教室～さくら大学～（12回、延べ参加人数255人）</li> </ul>						
5.事業の結果(成果)						
<ul style="list-style-type: none"> <li>生涯学習基本構想のキーワード「学びを創る」「学びに集う」「学びをつなぐ」という考え方のもと、「誰でも、いつでも、気軽に学べる」をモットーに、幅広い年齢層の方を対象に様々な学習機会の提供を目指した。</li> <li>受付方法については、窓口での受付の他に令和4年度は「往復はがきを使った受付方法」をおこなったが、令和5年度においては、窓口での受付とオンラインを用いた受付を実施し、いつでも受付ができる受付方法を実施した。これによって、平日しか受付ができない状況は解消された。</li> </ul>						
6.事業の課題等						
<p>生涯学習のきっかけづくりとして、今後も様々な講座を企画していく。</p>						

評価委員 A(意見等)

- ・何歳になっても学びたいと思っている人は多い。そういう人たちの受け皿になるべく、今後も様々な講座を工夫して開催していただきたい。
- ・行政区などの団体でも同じような目的で行事を開催している。他団体とも協力し、情報交換、共催等を工夫してもよい。

評価委員 B(意見等)

- ・地域の住民が講師は意義が有ります。また、児童・生徒の郷土愛を育むことになります。様々な方面から情報を模索し、講座を考える事は良い事だと思います。
- ・幅広い年齢層の方を対象に様々な学習機会の提供—これが生涯学習ですね、大変意義があると思います。

令和6年度（令和5年度事業）外部評価点検シート

No.17	事業名	中央公民館管理事業			課名	生涯学習課
予算額	決算額	左の財源内訳				
		国庫支出金	使用料等	繰入金	地方債・その他	一般財源
67,572,000	52,981,804	0	2,827,485	51,700	850,799	49,251,820
1.事業目的						
<p>町民が安全で快適に学習できるよう、施設を整備し、町民が気楽に集まり教養や技術を習得することができると共に「明るく、楽しく、豊かに」生きることの一助とする。</p>						
2.事業内容						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設の利用者対応</li> <li>・設備の維持管理</li> </ul> <p>※外注分は協議・契約・履行確認</p>						
3.令和5年度の事業目標(前年度からの改善点を含む)						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・随時発生する不具合において、その都度迅速に対応していく。また、光熱水費について、経済的な面、環境的な面から節制を心掛けていく。</li> <li>・施設利用については、新型コロナウイルス等の感染予防のため、利用者に対して換気や手洗いの励行など注意喚起に努めながら、利用の仕方を考えていく必要がある。</li> <li>・修繕については、集会室2階観客席上部の梁の修繕を実施する。</li> <li>・工事については、屋上の煙突から機械室への雨水浸入防止の工事や中央公民館竣工以後未更新である各階の階段部にある防火シャッターの更新工事を実施する。</li> </ul>						
4.令和5年度の取り組み(事業実績)						
<p>修繕（主なもの）</p> <p>8月 中央公民館自動扉修繕 616,000円</p> <p>12月 集会室観客席上部化粧梁クラック修繕 1,531,200円</p> <p>工事</p> <p>11月 生涯学習課事務室空調取替工事費 638,000円</p> <p>12月 中央公民館煙突改修工事費 701,800円</p> <p>2月 防火シャッター更新工事（令和6年度繰越明許） 8,305,000円</p>						
5.事業の結果(成果)						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設老朽化のため突発的な不具合や故障については、都度修繕しながら施設を維持した。</li> <li>なお、集会室観客席上部化粧梁クラック修繕については、観客席の上部の屋根の梁からコンクリート片が落ちてきたため修繕を行ったが、修繕を行った際に、大きなコンクリートに亀裂が一か所に見つかり、急遽、梁に頼付ける修繕を行い補強した。</li> <li>・電気、ガスなどの光熱水費については、施設利用者の理解を得ながら節電に努めた。</li> <li>・令和5年度の工事として、大雨が降ると中央公民館の煙突から機械室に雨水が入っていたため改修を行い、煙突に傘を付けることで機械室に雨水が入ることが防ぐことができた。</li> </ul>						

<p>また生涯学習課事務室の空調が10月に壊れたため、補正予算対応で工事を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・防火シャッター更新工事については、点検後の実施となり、施設のサイズに合わせた製品の製造に時間を要し、令和6年度への繰越明許として実施する。</li> </ul>
<p>6.事業の課題等</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設老朽化による突発的な故障等については、都度修繕しながら施設の有効活用を図っていく。</li> </ul>
<p>評価委員 A(意見等)</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・町民が安全で快適に学習できるよう、これからも随時改修や修繕に努めていただきたい。不測の事態が生じてからでは遅いので、常に安全確認をし、異常があればすみやかに対処していただきたい。</li> </ul>
<p>評価委員 B(意見等)</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス等の感染予防-利用者に対して換気や手洗いの励行注意喚起に努めながら、利用の仕方を考えていくことは良い事だと思います。</li> <li>・各種修繕工事は利用者の安全の為、推進していただきたいものです。</li> </ul>

令和6年度（令和5年度事業）外部評価点検シート

No.18	事業名	町民会館管理事業			課名	生涯学習課
予算額	決算額	左の財源内訳				
		国県支出金	使用料等	繰入金	地方債・その他	一般財源
23,632,000	22,768,788	0	1,195,310	0	766,403	20,807,075
1.事業目的						
<p>町民が安全で快適に学習できるよう、施設を整備し、町民が学習成果の発表を行う場や講習等の教養を習得すると共に「明るく、楽しく、豊かに」生きることの一助とする。</p>						
2.事業内容						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・支払処理</li> <li>・消耗品等の補充</li> <li>・除草等清掃作業</li> </ul>						
3.令和5年度の事業目標(前年度からの改善点を含む)						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設の効果的な運用を図るとともに、修理箇所が発生した場合はその都度対応するなどして、適切な維持管理を実施していく。</li> <li>・舞台照明機器のうち、経年劣化による火災が危惧される舞台照明用ボーターケーブルの取替工事を実施する。</li> <li>・施設の利用については、新型コロナウイルス等感染予防のため、利用者に対し注意喚起を努めながら、都度利用の仕方を考えていく必要がある。</li> </ul>						
4.令和5年度の取り組み(事業実績)						
<p>修繕（主なもの）</p> <p>6月 自動扉（1階西 2階）修繕 281,270円 （自動扉の開閉を行うための駆動・従動プーリーの亀裂に伴う修繕）</p> <p>工事</p> <p>11月から3月 ホール舞台照明用ボーターケーブル取替工事費 4,375,800円 （昇降式照明器具の給電ケーブルの経年劣化による取替）</p>						
5.事業の結果(成果)						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設が建設から30年以上経過しており、老朽化のため突発的な不具合や故障については、都度修繕しながら施設を維持した。それに伴い、建設当初から配線していた舞台照明用ボーターケーブルの取替工事を行った。</li> </ul>						

## 6.事業の課題等

- 30年以上経過しているため経年劣化による突発的な不具合等については都度修繕し、施設の有効活用を図っていく。
- 建設当初からまだ使用し続けている発電機や照明機器があるため計画的に部品の入れ替えなどを行っていきたいと考える。

### 評価委員 A(意見等)

- 不具合については、早めに発見し、適切に修繕を行い、安全確保に努めていただきたい。

### 評価委員 B(意見等)

- 経年劣化による修繕は、利用者の安全の為、進めて行って欲しいものと思います。

令和6年度（令和5年度事業）外部評価点検シート

No.19	事業名	社会体育振興事業			課名	生涯学習課
予算額	決算額	左の財源内訳				
		国県支出金	使用料等	繰入金	地方債・その他	一般財源
9,666,000	7,914,238	0	600,660	0	0	7,313,578
1.事業目的						
<p>町民が暮らしの中に「体育」を取り入れ「健康」と「元気」になれるよう、「町民と結びついた社会体育」をスローガンに各種講習会や大会などを開催し、町民にスポーツ参加の機会と普及に努めること。</p>						
2.事業内容						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・スポーツ教室開催</li> <li>・スポーツ大会開催</li> <li>・体育協会支援</li> </ul>						
3.令和5年度の事業目標(前年度からの改善点を含む)						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・普段仕事や子育て等でなかなかスポーツにふれあう機会の少ない世代に対し、生涯スポーツのきっかけとなるようなアプローチを実施していく。</li> <li>・教室やイベントにおいて、新型コロナ感染拡大予防に努めながら、事業を実施していく。町民体育祭は昨年度中止し、個人参加型のスポーツチャレンジを実施したため、令和5年度の実施方法を各区長や実行委員の意見を聞きながら検討する。</li> <li>・地区別ソフトボールについては、過去に中止となっており、また女子チームの参加が少ないため参加方法を見直しながら検討する必要がある。</li> <li>・スポーツ協会及びスポーツ少年団については、自立した運営が図れるよう引き続き支援を行っていく。</li> </ul>						
4.令和5年度の取り組み(事業実績)						
<p>○講座・教室  タグラグビー教室（1回 参加人数17人）  モルック教室（1回 28人）</p> <p>○スポーツ推進委員活動  委員会（委員会11回開催、東海四県プロジェクト、スポーツ教室、町民体育祭、桜並木健康ジョギングなどを運営）</p> <p>○スポーツ大会開催  地区別ソフトボール大会（9月3日、10日開催）  地区別対抗グラウンドゴルフ大会（11月25日開催） 参加チーム22チーム  町民体育祭 →雨天による中止  愛知万博メモリアル第16回愛知県市町村対抗駅伝競走大会（20人参加）  桜並木健康ジョギング（参加者数358人：5km74人、3km166人、1.8km118人参加）</p> <p>○スポーツ協会・スポーツ少年団事業  スポーツ協会（9団体）  春季町民総合体育大会 大口町・扶桑町親善体育大会 秋季町民総合体育大会 グラウンドゴ</p>						

ルフ大会などを実施

スポーツ少年団（4団体）

全国スポーツ少年団軟式野球交流大会地区大会

体力テスト

愛知県スポーツ少年大会西尾張支部大会などを実施

## 5.事業の結果(成果)

○地区別ソフトボール大会及び地区別グラウンドゴルフ大会については、令和4年度までコロナ禍で実施を中止していたが、令和5年度は参加チームを制限し、区の協力を得ながら実施することができた。地区別ソフトボールの女子の部については、地区で2チームできないことを事前に把握して個人で参加できるように広報で呼びかけをしたが、チームを作るまでは至らず女子の部は実施することができなかつたため、令和6年度の課題となる。

○町民体育祭については、区の意見を聞き、実行委員会で検討した結果、児童生徒リレーなどの競技を除いた綱引きなどの競技に絞り、半日での実施する町民体育祭を検討した。当日は雨天のため実施することができなかつたため、令和6年度どのように実施していくか実行委員会で再度検討し、地区の交流ができる場を残していきたい。

○スポーツ推進委員活動について、タグラクビー教室を行いつつ、新たにモルック体験教室を実施した。モルック体験教室では、年齢問わず参加でき、ルールもわかりやすいため、小さな子どもから高齢者まで多世代の参加があった。他の市町村でも注目を集めているスポーツであるため、継続を考える。

○スポーツ協会及びスポーツ少年団の運営については、各団との連携を密にとり、円滑な事業となるよう尽力した。今後も各団の自主自立による運営のため、助言などを行っていく。

## 6.事業の課題等

- ・地区別ソフトボール大会、地区別グラウンドゴルフ大会及び町民体育祭において、各団体との連携を図りながら、円滑な実施ができる方法を検討していきたい。
- ・スポーツ協会やスポーツ少年団については、今後も各団の自主自立による運営のため、助言などを行っていく。

## 評価委員 A(意見等)

・令和5年度町民体育祭は雨天中止になったが、区の意見等で半日日程になったということでした。それも仕方ないことかと思う。

・行政区はじめ様々な団体と連絡調整をし、町主催だけでなく、他の団体と共催という形の事業も計画できるのではないかと思う。

## 評価委員 B(意見等)

・地区対抗ソフトボール大会について--時代の推移か、だんだん競技する人が高齢化して、無理に参加して怪我する人もでてきている、違った競技にする時期が来たのではないかと思う。

令和6年度(令和5年度事業)外部評価点検シート

No.20	事業名	温水プール管理事業			課名	生涯学習課
予算額	決算額	左の財源内訳				
		国県支出金	使用料等	繰入金	地方債・その他	一般財源
60,171,000	58,393,955	0	0	0	550,000	57,843,955
1.事業目的						
<p>町民が安全で快適にスポーツを楽しむことができるような施設の一つとして、一年を通して活用できる温水プールを整備することで町民の体力づくり、健康づくりに努め、スポーツによる明るいまちづくりを推進する。</p>						
2.事業内容						
<ul style="list-style-type: none"> <li>指定管理の範囲外の工事等について、検討し実施。</li> </ul>						
3.令和5年度の事業目標(前年度からの改善点を含む)						
<ul style="list-style-type: none"> <li>施設の管理運営が指定管理者に委ねられていることから、施設の適正な運営が行われているかの指導・助言を実施していく。また、指定管理者との連携を密にするため、定期的な連絡会議を引き続き実施していく。</li> <li>工事については、3階機械室の雨漏りが発生しているため屋上の防水シートの改修を実施する。その他の修繕については、協議のうえ、施設な改修が必要な個所について把握し、今後の改修に向けて準備を進めていく。</li> <li>来年度は指定管理者との契約5年目となるため、次期5年間の指定管理について検討していく必要がある。</li> </ul>						
4.令和5年度の取り組み(事業実績)						
<p>温水プールのネーミングライツ契約 550,000円(令和5年4月~令和6年3月分)  (契約期間 令和3年10月1日~令和8年9月30日 契約金額 2,750,000円)  愛称: オークマ温水プール 愛称の表示場所: プール施設(正面、東側)、案内板</p> <p>指定管理者であるウィル大ロススポーツクラブと定期的に情報共有会議を実施  (指定管理施設の修繕計画や利用人数などの状況報告など)</p>						
5.事業の結果(成果)						
<p>○施設管理・運営について、指定管理者であるウィル大ロススポーツクラブと定期的に打合せを行い、情報共有しながら行うことができた。</p> <p>※令和6年度に施設設備や躯体や始めとする調査を行う方向性としたため、屋上防水工事は見送った。</p>						

## 6.事業の課題等

施設の老朽化に伴う設備修繕が多く、竣工から40年経過し、大規模改修工事から20年経過しているため、今後温水プールの在り方をどのようにするか検討する必要がある。施設の活用を今後どうしていくかをウィル大口スポーツクラブと協議し、修繕計画の可視化を進めていく。

### 評価委員 A(意見等)

・温水プールは、年間を通して利用でき、町民が体力づくり、健康維持に努めることができる貴重な施設である。町民の利用希望も多いと思う。老朽化が進んでいるが、改修にしても新設にしても、廃止ではなく何とか維持する方向で進めていくのが町民の希望ではないかと思う。

### 評価委員 B(意見等)

・施設管理・運営について、指定管理者はウィル大口スポーツクラブとあるが、施設管理者を入札にして、経費削減していくことが今後必要ではないかと思う。

令和6年度（令和5年度事業）外部評価点検シート

No.21	事業名	グラウンド等管理事業			課名	生涯学習課
予算額	決算額	左の財源内訳				
		国県支出金	使用料等	繰入金	地方債・その他	一般財源
43,695,000	43,505,257	0	0	0	1,200,000	42,305,257
1.事業目的						
<p>町民が安全で快適にスポーツを楽しむことができるよう、また、多種多様なスポーツ種目の要望に応えられるように施設を整備し、町民の体力づくり、健康づくりに努め、スポーツによる明るいまちづくりを推進する。</p>						
2.事業内容						
<ul style="list-style-type: none"> <li>指定管理委託した施設の町負担分支払</li> </ul>						
3.令和5年度の事業目標(前年度からの改善点を含む)						
<ul style="list-style-type: none"> <li>管理運営が指定管理者に委ねられている施設について、指定管理者が適切な管理に努めるよう指導・助言をしていく。また、経費抑制や適正な管理ができるよう協議を続ける。</li> <li>施設の利用については、新型コロナウイルス感染拡大予防に努めながら、利用の仕方を指定管理者と協議しながら考えていく必要がある。</li> </ul>						
4.令和5年度の取り組み(事業実績)						
<p>工事 2月 わかしゅち国体記念運動公園汚水排水工事（下水道接続工事） 1,793,000円</p> <p>総合運動場のネーミングライツ契約 600,000円（令和5年4月～令和6年3月分） （契約期間 令和3年10月1日～令和8年9月30日 契約金額 3,000,000円） 愛称：オークマグラウンド 愛称の表示場所：正門、管理棟、A面スタンド、案内板</p>						
5.事業の結果(成果)						
<ul style="list-style-type: none"> <li>指定管理者であるウィル大ロスポーツクラブと定期的に打合せを行い、情報共有をしながら施設運営することができた。</li> <li>工事において、わかしゃち国体記念運動公園の下水道接続工事をおこなった。わかしゃち国体記念運動公園は下水道本管の末端（上流）となり水源が少ないため、定期的に敷地内の配管に詰まりがないか確認を指定管理者と共に行った。</li> </ul>						
6.事業の課題等						
<p>施設の利用は、指定管理者と協議しながら施設運営を図る必要がある。</p>						

評価委員 A（意見等）

・わかしゃち国体記念運動公園は、グラウンドの利用者が多く町民の要望に沿ったものとなっている。併設された公園も近所の小さい子連れの利用が多く見られる。除草作業も定期的に行われているようだが、かなり草が伸びて利用しにくいときもある。もう少し除草の回数を増やせると公園が一層利用しやすくなる。

評価委員 B（意見等）

・施設管理・運営について、指定管理者はウィル大口スポーツクラブとあるが、施設管理者を入札にして、経費削減していくことが今後必要ではないかと思う。

令和6年度（令和5年度事業）外部評価点検シート

No.22	事業名	野外活動施設管理事業			課名	生涯学習課
予算額	決算額	左の財源内訳				
		国県支出金	使用料等	繰入金	地方債・その他	一般財源
4,623,000	4,543,108	0	0	0	0	4,543,108

1.事業目的

町民が自然にふれあいながら規律、協調、友愛の精神を養い、心身ともに健全に、また、より豊かな心を養うことを目的とし、安心して利用できる施設管理を目的とする。

2.事業内容

- ・設備の維持管理  
※外注分は協議・契約・履行確認
- ・支払処理
- ・消耗品等の補充

3.令和5年度の事業目標(前年度からの改善点を含む)

- ・施設の老朽化にしているため、修繕などで対応していくか、点検で撤去推奨判定の遊具については、撤去などの措置を行っていく。
- ・日常管理を委託している地元の有志団体構成員の高齢化しているため、相談しながら継続して管理ができる方法を検討していく。
- ・今後の施設のあり方については、引き続き方向性を検討していく。
- ・施設の利用については、新型コロナウイルス等の感染予防に努めながら、利用の仕方を考えていく必要がある。

4.令和5年度の取り組み(事業実績)

アスレチック遊具の安全点検を年1回実施した。  
修繕（主なもの）  
12月から3月 ふれあいの森木製遊具修繕 726,000円

5.事業の結果(成果)

- ・アスレチック遊具の定期点検を年1回実施し、指摘のあった木製アスレチック遊具のロープの張替えや木材の取替などの修繕を行った。
- ・敷地内にある空洞化した樹木に蜂が住み着くなどがあったため、専門業者に駆除の委託をした。今後、遊具だけでなく樹木の管理についても検討していく必要がある。
- ・日常管理を委託している団体の構成員が高齢化しており、令和4年度中に清掃回数の変更など委託業務の内容を見直した。令和5年度は、施設内のトイレ清掃、草刈り、施設の開閉錠を請け負ってもらい、今後、無理のない範囲内で管理をお願いしたいと考える。

6.事業の課題等
<ul style="list-style-type: none"> <li>・アスレチック遊具の増設は、施設の在り方について検討しながら進めていく。</li> <li>・施設の維持管理については、アスレチック場、キャンプ場の利用状況等を考慮しながら施設そのものの在り方を検討していく必要がある。</li> </ul>
評価委員 A (意見等)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもたちが安心して遊べるように、遊具の安全点検や修繕、撤去、樹木の管理等を引き続ききちんと行っていただきたい。</li> <li>・キャンプ場としては町でも貴重な施設である。それも考慮し、利用状況も加味しながら今後の在り方を検討する必要がある。</li> <li>・どこの地域でもボランティア団体の高齢化は進んでいる。日常管理を地域のボランティア団体に任せることは今後難しくなってくる。他の方法を検討する時期ではないかと思う。</li> </ul>
評価委員 B(意見等)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・地元の有志団体構成員の高齢化が進んでいるため、継続して管理ができる方法をぜひ検討していただきたいと思います。</li> <li>・アスレチック遊具の定期点検実施、遊具の修繕を、利用者の安全の為、速やかに実施していただきたい。</li> </ul>

令和6年度（令和5年度事業）外部評価点検シート

No.23	事業名	文化財保護事業			課名	生涯学習課
予算額	決算額	左の財源内訳				
		国県支出金	使用料等	繰入金	地方債・その他	一般財源
3,308,000	3,056,334	0	0	0	29,500	3,026,834
1.事業目的						
郷土に遺る貴重な文化遺産の保存及び活用に努め、次世代へ継承する。						
2.事業内容						
<ul style="list-style-type: none"> <li>指定文化財の保存と活用</li> <li>新規に指定可能な文化財の調査</li> <li>町の歴史に係る調査及び研究</li> <li>埋蔵文化財の保護と開発に係る調査</li> <li>伝統芸能の継承と普及</li> </ul>						
3.令和5年度の事業目標(前年度からの改善点を含む)						
<p>指定、未指定に関わらず、町内に遺る文化遺産等について、専門家や地域住民の協力を得ながら調査を進め、その成果を町民に還元する。</p> <p>各地区に伝わる伝統芸能について、近年継続が困難になりつつあり、またコロナ禍により練習及び発表の場が失われている。このため、次世代へ継承し、発表の場を創出する事業を推進することを目的として、毎年4月及び10月に開催する伝統芸能発表会と、大口北小学校で実施している各地区保存会と児童の交流会を開催する。春及び秋の伝統芸能発表会は令和2年度以降、開催できていないため、各地区の活動状況を把握しつつ、実施に向けて準備を進める。</p>						
4.令和5年度の取り組み(事業実績)						
<p>町内に遺る文化遺産を対象とした普及啓発活動について、コロナ禍前にあたる平成30年度以前と比べると数自体は少ないが、町内で活動する各種団体と連携して進めることができた。</p> <p>伝統芸能は、春及び秋の伝統芸能発表会、北小学校との連携事業を開催した。特に秋は小口城址公園ではなく、多世代が集う憩い広場という新しい会場で開催することができた。</p>						
5.事業の結果(成果)						
<p>春及び秋の伝統芸能発表会が開催できたのは、令和元年度以来のことであり、これまで練習自体も制限されてきた各地区の保存会にとって、久々に発表の場が設けられたことは保存会の活性化につながった。また、秋の伝統芸能発表会は、令和元年度まで小口城址公園で行われていたものを、地元中小口の有志の方々とともに、多世代が集う憩い広場に会場を移して開催できた。</p>						

6.事業の課題等
<p>秋の伝統芸能発表会は、新しい会場での開催であったため、その利点及び課題が改めて確認できたので、次年度は地域や保存会の方々と協議を積み重ね、より充実したイベントとなるよう改善していかなければならない。</p>
評価委員 A(意見等)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・秋の伝統芸能発表会を小口城址公園から多世代が集う憩い広場に移して開催したことは、より多くの人目に触れることができよかった。また地域と連携したイベントとし、多くの人が集まることできた。</li> <li>・現在の伝統芸能を維持していくとともに、ほかにも細々で行われている伝統芸能があれば、それも残していきたい。さらに芸能に留まらず、広く伝統行事を発表する機会があれば面白い。</li> </ul>
評価委員 B(意見等)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・町内に遺る文化遺産を対象とした普及啓発活動・伝統芸能の継承と普及について、子供たちの郷土愛に繋がるので進めていっていただきたい。</li> </ul>

令和6年度（令和5年度事業）外部評価点検シート

No.24	事業名	歴史民俗資料館運営事業			課名	生涯学習課
予算額	決算額	左の財源内訳				
		国県支出金	使用料等	繰入金	地方債・その他	一般財源
13,470,000	13,082,186	0	0	0	27,450	13,054,736

1.事業目的

先人の培ってきた過去の営みを現在に伝えるため、郷土「おおぐち」に関する事柄や美術分野等の展示を実施することにより、町民の知的欲求に応える。また、小中学校の見学受入れや資料貸出等により、学校教育に寄与する。

2.事業内容

- ・年4回の企画展開催
- ・常設展示室の管理
- ・展示解説及び展示物に係る調査研究
- ・文化財収蔵庫の管理
- ・収蔵品管理及び活用
- ・小中学校等の見学受入れ
- ・博物館実習生の受入れ
- ・年報、展示図録等の発行

3.令和5年度の事業目標(前年度からの改善点を含む)

春及び冬の企画展は、新しい生活様式に対応しつつ実施する。夏及び秋の企画展は、夏休みの小中学生を対象に町内の文化遺産を紹介する内容や、町内の歴史に関するテーマを中心に開催する。

文化財収蔵庫お及び収蔵品の活用は、年1回の施設開放及び月1回の「オレンジカフェ・大口」への資料貸与を実施し、教育及び福祉関係機関と連携を進める。

4.令和5年度の取り組み(事業実績)

年4回の企画展を実施した。春は、端午の節句をテーマに開催し、陣羽織や兜を着て写真撮影を自由に行うことができるスペースを設けた。夏はラジオを取り上げ、新旧のラジオを紹介するとともに、子どもが実際にラジオに触れ、チューニングを体験できるコーナーを設置した。秋はゲームを題材とし、アナログからデジタルまでの推移を資料とともに紹介した。冬はひなまつりをテーマとし、17段の大ひな階段を筆頭に、様々な雛人形を展示した。

この他、収蔵品の活用として、大口町社会福祉協議会主催の「オレンジカフェ・大口」での資料貸与や、ふれあいまつりに合わせ、収蔵庫の一日開放を行った。

<p>5.事業の結果(成果)</p> <p>昨年度は企画展を年4回開催したものの、新型コロナウイルスの影響もあり、来館者数が伸びなかったが、今年度は令和元年度以前の水準といかないまでも、来館者数が増加しつつある。</p> <p>このまま次年度も来館者が増加するよう、子どもや家族連れを対象とした町にまつわる内容の企画展を開催し続けていく。</p>
<p>6.事業の課題等</p> <p>文化財収蔵庫及び収蔵品の活用も、昨年度より着実に実績は増えているため、教育及び福祉関係機関との連携を維持発展できるように努めていかなければならない。</p>
<p>評価委員 A(意見等)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・企画展はいろいろと工夫され、魅力的な内容となっている。コロナの影響で減っていた利用者も戻ってきているようでよかった。さらに多くの利用者があるよう、PRに努めてほしい。</li> <li>・収蔵庫の一日開放や「オレンジカフェ・大口」への資料貸与は、収蔵品の有効活用ができてよい。認知症の治療（回想法）にも効果があるようで、とても良い試みである。</li> <li>・収蔵品は他に教育活動等にも利用され、成果を上げている。さらに利用を進めていくには、収蔵庫の収蔵品についてもっと多くの人に知ってもらう必要がある。</li> </ul>
<p>評価委員 B(意見等)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・文化財収蔵庫及び収蔵品の活用として、一般開放を増やしていただきたい。</li> <li>・文化財収蔵庫・収蔵品が一般の人々に知られていないような気がします。今後、学校等で大いに利用・見学できることを期待したいです。</li> </ul>

令和6年度（令和5年度事業）外部評価点検シート

No.25	事業名	歴史文化教育事業			課名	生涯学習課
予算額	決算額	左の財源内訳				
		国県支出金	使用料等	繰入金	地方債・その他	一般財源
—	—					
1.事業目的						
<p>町内の歴史及び文化を、様々な団体と連携しながら次世代へ継承することにより、町民が郷土を愛し、町の魅力として誇りを持てるまちづくりを推進する。</p>						
2.事業内容						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保育園との連携事業</li> <li>・ 小中学校における郷土学習</li> <li>・ 地域自治組織との連携事業</li> <li>・ 町内各種団体との連携事業</li> </ul>						
3.令和5年度の事業目標(前年度からの改善点を含む)						
<p>各保育園及び各地域自治組織との連携、町内の小学校6年生及び中学校2年生を対象とした「松江開府の祖 堀尾吉晴公」をはじめ、他学年においても「ふるさと大町」をテーマとした授業を実施。機会があれば様々な団体と連携し、幅広く展開する。特に一昨年度末に連携して作成した冊子・記録類について、今年度はそれらを活用できるようなイベントを開催する。</p> <p>また、小中学校の郷土学習での講話や資料提供等、可能な支援を提案し、重点的に連携を推進する。</p>						
4.令和5年度の取り組み(事業実績)						
<p>保育園及び小中学校については、昨年度以上に様々な依頼をいただき実施することができた。保育園は南保計5回、西保計6回、北保計5回にわたり「郷土を愛する心を育む活動」を実施し、小中学校は「郷土の偉人 堀尾吉晴公」をはじめ、各種授業の連携を進めた。地域自治組織は、北地域自治組織環境部会に対し、小口城に関する勉強会を2回行った。また、中地域自治組織はアドバイザーの依頼を受け、山姥物語ゆかりの地をめぐるツアーを開催し、南地域自治組織の「南地域まちづくりかわら版」への寄稿を行った。</p>						
5.事業の結果(成果)						
<p>保育園及び小中学校は、昨年度以上の依頼をいただき、昨年度以前から続けているものでも、新型コロナウイルスに係る制限の解除や内容の見直し等をした上で実施することができた。これは、より質の高い活動・授業内容となったことで、より子ども達に郷土の理解を深めてもらうきっかけを創出することができた。</p>						

## 6.事業の課題等

コロナ禍から様々な行事・取り組みが各団体とも復活したため、来年度も引き続き、郷土学習や資料提供等、できる限りの支援を提案し、連携を深めていきたい。

### 評価委員 A(意見等)

・保育園、小中学校、自治組織、行政区等と連携をし、郷土の歴史、あるいは郷土に残る歴史的遺産等について、様々な角度から伝えることができている素晴らしいことだと思う。それにより子どもからお年寄りまでが郷土についての関心や愛着を深めることに大きな役割を果たしている。

### 評価委員 B(意見等)

・町内の歴史及び文化を、様々な団体と連携しながら次世代へ継承することにより、町民特に子供たちの、郷土愛を育み、町に誇りを持ってもらいたいと思いますので、是非、推進していただきたいと思います。

令和6年度（令和5年度事業）外部評価点検シート

No.26	事業名	図書館運営事業		課名	図書館	
予算額	決算額	左の財源内訳				
		国県支出金	使用料等	繰入金	地方債・その他	一般財源
33,615,000	33,123,823	0		0	106,810	33,017,013
<b>1.事業目的</b>						
<p>時代や利用者のニーズを的確に把握して、利用者に対して必要な図書や資料の提供に努め、利用者の増加を図る。積極的に図書館から利用者へ新たな本との出会いの場を創出し、図書館サービスの向上を図る。幼いころから本に身近に触れ、本に親しむ習慣を育み、読書活動の推進に努める。郷土資料を“文化財”として守り、後世に伝える。</p>						
<b>2.事業内容</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>• 図書館の調査及び統計に関すること</li> <li>• 図書館の広報に関すること</li> <li>• 図書館年報の作成</li> <li>• 図書資料の貸出・返却に関すること</li> <li>• レファレンス(参考調査)に関すること</li> <li>• 図書館資料の選書に関すること</li> <li>• 郷土資料の収集・保存等に関すること</li> <li>• 読書活動の推進に関すること</li> <li>• おはなし会・上映会等のイベント開催に関すること</li> <li>• 図書館資料の分類・整理及び目録作成・保管に関すること</li> </ul>						
<b>3.令和5年度の事業目標(前年度からの改善点を含む)</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>• 児童向け事業として、子どもの読書推進事業で特定非営利活動法人「子どもと文化の森」と協働で実施し、幼いころから本と触れ合う事業を実施する。 利用の少ない10代に向けて、学習スペースでアンケートを実施し、「生の意見・希望」をできる限り反映させた選書を行い、魅力がある図書を充実させる。 現在ヤングアダルト世代に人気の「ライトノベル」が児童室にあるが、その世代が児童室に入って借りるには利用しづらい状況である。このことからロビーにティーンズコーナーをつくる。</li> <li>• 郷土に資料や町からの発刊物の現状を調査し、「電子化されているもの」「書籍しかない物」を選別し、可能なものから電子化を進めてデータの蓄積をしていく。また、それらの管理方法や場所（書架の確保）等、物理的資料（書籍）と電子書籍を複合化した形の「郷土資料」として電子書籍化できないかも検討する。</li> </ul>						
<b>4.令和5年度の取り組み(事業実績)</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>• 10代以下向けにアンケートを行い、情報収集をして本の選書を行った。また、幼少期から図書館で本を借りて読む習慣をつけるため、小学生以下対象のスタンプカードを導入した。 児童室にライトノベル小説があったが、10代以上が児童室に入りやすく、あることを知らない人が多かった。このことから、ライトノベルコーナーをロビーに設置した。</li> <li>• 電子書籍の現状を調査し、図書館協議会で電子書籍導入の検討を行った。結果、電子書籍の導入は見送りとなった。このことから、現在の電子郷土資料をすべて紙媒体にして保存を行った。また、現在図書館で所属している行政郷土資料を洗い出し、全課に依頼。抜けていた郷土資料や新たに作成された郷土資料の収集を行った。</li> </ul>						

<p>5.事業の結果(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケートを取り入れて魅力ある本を充実させ、小学生以下対象のスタンプカードも導入した結果、1年間でスタンプカード満了者が89名、小学生以下の年間利用者も500名以上増となり、課題であった「図書館で本を借りる習慣をつける」という目的の効果が出了。そのため、今後もスタンプカードを継続して行っていく。</li> <li>・利用の少ない10代の本離れが課題であったが、ライトノベル小説の蔵書を増やし、ライトノベルコーナーをロビーに設置した結果、高校生世代の利用率を増加させることができた。</li> </ul>
<p>6.事業の課題等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・図書館協議会で電子書籍導入の検討を行い、電子書籍については当面見送ることとなったが、今後も電子書籍については小中学生のタブレット学習との連携を含めて同行の変化を確認していく必要がある。</li> </ul>
<p>評価委員 A(意見等)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・図書館で所蔵している行政郷土資料を洗い出し、抜けていた郷土資料や新たに作成された郷土資料を収集されたのは貴重な作業だと思う。散逸する前に資料として整理できたのは大きな意義がある。</li> <li>・アンケートによる魅力ある本の充実、スタンプカードの導入、ライトノベルコーナーの設置等、様々な工夫により利用者数が増加したことは大いに評価できる。</li> <li>・電子書籍の導入は時期尚早ということですが、いずれはその時が来ると思うので、情報収集に努めてほしい。</li> </ul>
<p>評価委員 B(意見等)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現在、本離れといわれています。パソコン・ 아이폰・タブレットにより、本を読む人が減ったと言われています。生徒・児童に図書館へ足を運んでもらえるような『おはなし会・上映会・イベント・関連の展示会』は増やして欲しいと思います。</li> </ul>

令和6年度（令和5年度事業）外部評価点検シート

No.27	事業名	町史編さん事業			課名	町史編さん室
予算額	決算額	左の財源内訳				
		国県支出金	使用料等	繰入金	地方債・その他	一般財源
15,516,000	14,981,223	0	0	0	0	14,981,223

1.事業目的

1982年、町制施行20周年を記念して町史を発刊して40年が経過している。  
その町史をベースに、戦後史を軸に町史を編さんし補完することで、郷土おおぐちに関する歴史及び民俗（先人の暮らし）を子孫に伝え、郷土史研究に寄与する。

2.事業内容

●町史編さんの方針等

- ・より広範にわたって歴史や民俗に関する情報を収集するため、町民等の協力を積極的に求め、原稿等の作成にも関わって頂く。
- ・図表や写真、コラム等を多用し、手に取りやすい、読みやすい内容を目指す。  
特に、大口に固有の分野等については丁寧に扱う。

●『大口町史～現代史編～』編さん

- ・原稿執筆
- ・執筆にあたる根拠資料の収集及び根拠資料と本文の確認。
- ・町機関における保存、関係機関等への配布、販売等の検討

●刊行後の事務

- ・収集した資料の整理
- ・頒布及び本文のデータ公開に係る事務

3.令和5年度の事業目標(前年度からの改善点を含む)

町史編さんに着手した当初の発刊予定は、町制施行60周年を迎える令和4年度を見据え令和4年2月末であったが、編さん作業の遅れから、令和5年2月末へ延期をした。

さらに、根拠資料の確認遅延を要因として令和5年1月、発刊予定を令和5年12月に再延期することとした。

町史として発刊する点から、根拠資料の確認にはより正確、より慎重に取り組まなければならないと考えている。

●目標

- ・町史の発刊（令和5年12月末）と、保存及び配布、頒布の完了。
- ・町史データ等の公開
- ・根拠資料等の整理とその保存体制の確立

●改善策

- ・令和5年1月に、編さん体制の見直しを実施し、その際、編集方針や方法、内容等についても見直しを行っている。その方針等に基づいて作業を進め、不具合等があれば即時、見直しを重ねながら、監修者の指示を仰ぎながら取り組む。

4.令和5年度の取り組み(事業実績)
<p>本文に記載されている根拠資料の確認について進捗が芳しくなく、12月末の発刊をさらに令和6年3月まで延長した。根拠資料の確認は9月末で完了し、12月末には原稿データ(版下)が完成した。その後、色校・最終確認等を行った後、2月に印刷製本に入り、3月末に完成した。</p>
5.事業の結果(成果)
<p>年度当初の予定からすると3か月遅延したが、年度内に本編が完成し、度重なる延長をしてきた本事業に区切りをつけることができた。</p>
6.事業の課題等
<p>令和5年度をもって町史編さん室は廃止となったが、刊行した町史をどのように活用するかは、今後検討していかなければならない。</p>
評価委員 A(意見等)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・町史編纂事業は大変な作業だったと思う。無事に完成し、関係者の皆様ご苦労様でした。</li> <li>・データ化して公開しているので誰でも資料として活用ができるのはありがたい。また授業等でも活用がしやすく、今後どの場面でどこを使うとよいか等のマニュアルができると一層使いやすいかもかもしれない。</li> <li>・本町史の特徴であるコラムだけを集め、別冊コラム集としてまとめてみたら面白いと思う。</li> </ul>
評価委員 B(意見等)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・完成した町史は、ホームページから閲覧でき、学校ではそのホームページを活用して勉強等に利用していることは大変良い事だと思います。</li> </ul>